

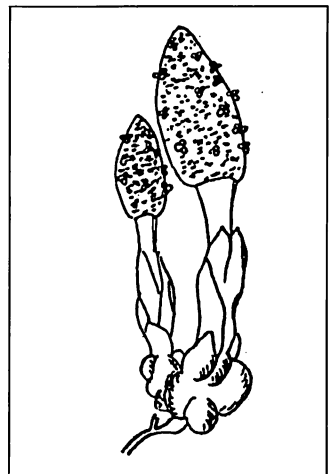
# 植 物

植物は140種を選び、解説しました。関連解説も含めると160余種が登場します。

1. **時期**は、主として花や実の見られる期間を示してあります。場所と年により多少のずれはあると思いますが、一応の採集適期と考えて下さい。もちろん花や実の時期以外の観察も大切です。
2. **場所**は、よくその植物が見られる場所という意味です。なるべく具体的に書くよう努めました。日なたと日かげなどのような環境条件、あるいはよくいっしょに見られる植物は何か、なども注意しておきましょう。
3. **解説**は、その植物名の由来とか方名（方言の呼び名）、あるいは用途など、その種によって異なりますが、気楽に読める内容にしてあります。一定の規準は設けてありません。
4. **似た植物**は、必ずしも近縁種とは限りません。一見似た感じの植物という意味です。
5. 見分け方や特徴については○で囲んで示しました。その際、顕微鏡やルーペを使っての細部にわたる判別法はなるべく避けました。花のつくりやおしべ、めしべ等についてのくわしい記述は図鑑を参照して下さい。外見的特徴で見分けられるよう工夫したつもりです。
6. 難解な用語はなるべく使わないよう努力しましたが、例えば小学校低学年生がこの冊子をもとに植物を見分けるのは無理かと思います。ただ、大人にとっては経験上“顔”は知っているという植物が大半ですから、ぜひ子供達に教えて下さい。
7. 図にうすく着色して用いられるのも一方かと思います。楽しい使い方を工夫してみてください。
8. 波線の囲み記事は軽いコラム欄のつもりです。関連記事や「科」の特徴、一口メモ的な内容を取り上げました。
9. 図の不明な所は市販の図鑑等で補って下さい。一部誇張したり省略したりして描いたところもあります。
10. 植物名の前に☆の付いた種は、博物館が中心になって行っている「調べよう鹿児島自然」の調査対象種です。どのように分布しているかを調査しています。見つけたかたは知らせてください。

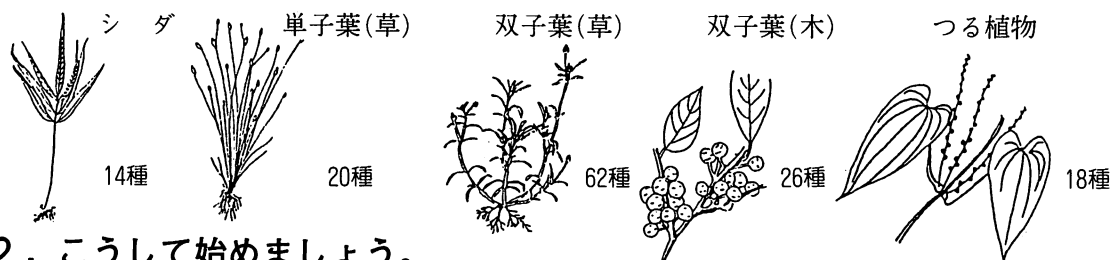
右の図は、キイツチトリモチという植物です。葉は無く、土の中の茎から花だけを出します。喜入小学校の裏庭で最初に発見されたものです。鹿児島市吉野町の自生地は国指定天然記念物になっています。トベラやシャリンバイの根に寄生する多年生草本です。なんとおもしろい形をした植物でしょう。10～11月に花が咲きます。県内にはわりとありますので、さがしてみましよう。

この本をきっかけとして、植物の世界をじっくりのぞいてみてください。



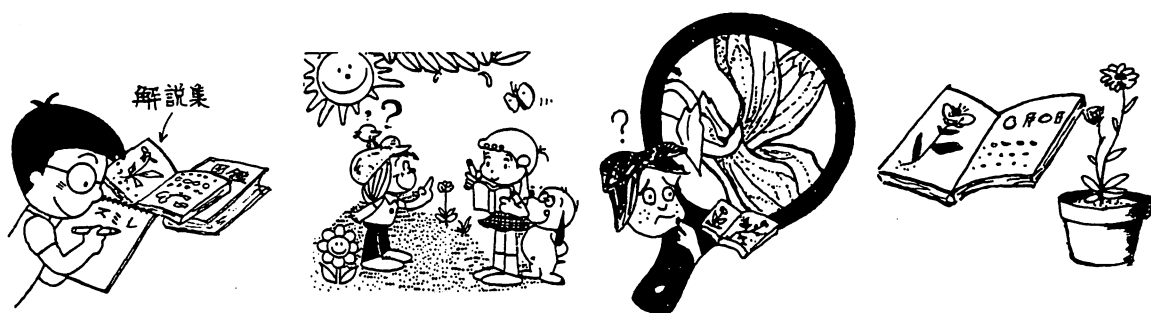
# 植 物

## 1. これが植物140種の顔ぶれです。



## 2. こうして始めましょう。

- (1)まず下調べ (2)野外へ探しに出たら (3)再確認 (4)押し葉や鉢植えに



- 植物全体の形や色は？
- 「いつごろ」「どこに」？
- 見分けるポイントは？

- 目的の植物か？葉や花のつき方、形、色などチェック
- 疑わしいのも持ち帰る
- 周囲のようすや他の植物にも注意

- 1人でじっくり観る
- みんなで分担をきめて検討する
- これだっ!!という感激

- 手帳やノートで簡単な押し葉を
- 鉢植えにして観察も

○何回も足を運び「顔なじみ」をつくるのが植物を覚えるコツです。

○写真で記録するのも楽しいもの、思い切りアップで撮ると意外な発見があります。

## 3. こんな標本のつくり方もあります。

- 似た植物の花だけとか、葉だけを手帳にはっておくと比べながら覚えられます。
- 気に入った植物の花のアルバムや葉のアルバムを作ってみましょう。写真をそえるとさらに楽しいもの。ヨモギの一生を押し葉にするのも面白いでしょう。
- ひかげにつるして作るドライフラワーも楽しめます。



## 4. 本格的な標本も作ってみよう —おもしろをきかして、早く乾燥させるのがコツです—

- (1)新聞紙にはさみおもしろをする。(2)1日1回新聞紙をとりかえる。(3)ガムテープを小さく切って台紙にはりつける。(4)採集地・採集年月日等を書いたラベルをつけるとりっぱな標本のでき上がり。(5)洋服箱にナフタリンを入れて保存します。

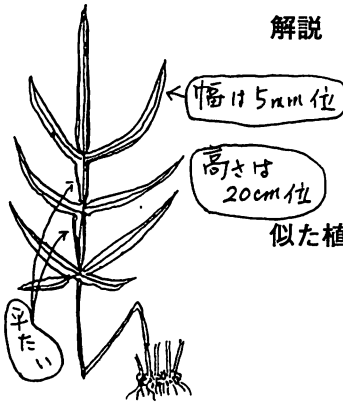
# 1 イノモトソウ (わらび科)

**時期** 常緑多年生のため年間を通して採集できる。ただし、3~4月頃は若葉のため胞子はない。

**場所** 人家周辺の石垣や道路ばたの崖地など。

**解説** 井戸のそばによく生育している草の意味。胞子をつける葉を胞子葉、普通の葉を栄養葉という。胞子葉の方が一般にどのシダでも高くなる。これは風によってより遠く広く胞子を飛ばすためと考えられる。

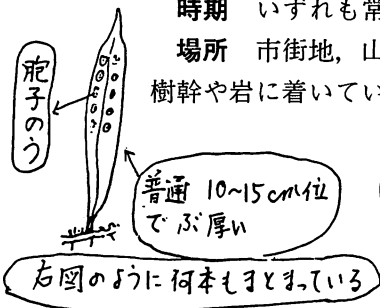
**似た植物** リュウキュウイノモトソウ  
オオバノイノモトソウ



# 9 ノキシノブ (うらぼし科)

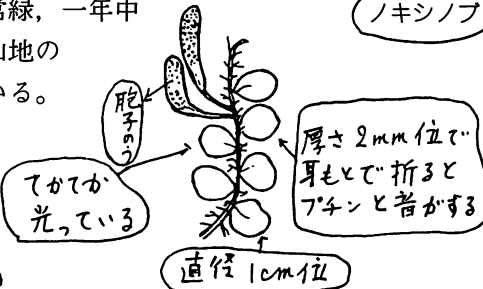
**時期** いずれも常緑、一年中

**場所** 市街地、山地の樹幹や岩に着いている。



**似た植物** ない

# 13 マメヅタ (うらぼし科)



# 11 ホシダ (おしだ科)

**時期** 常緑性、1年中

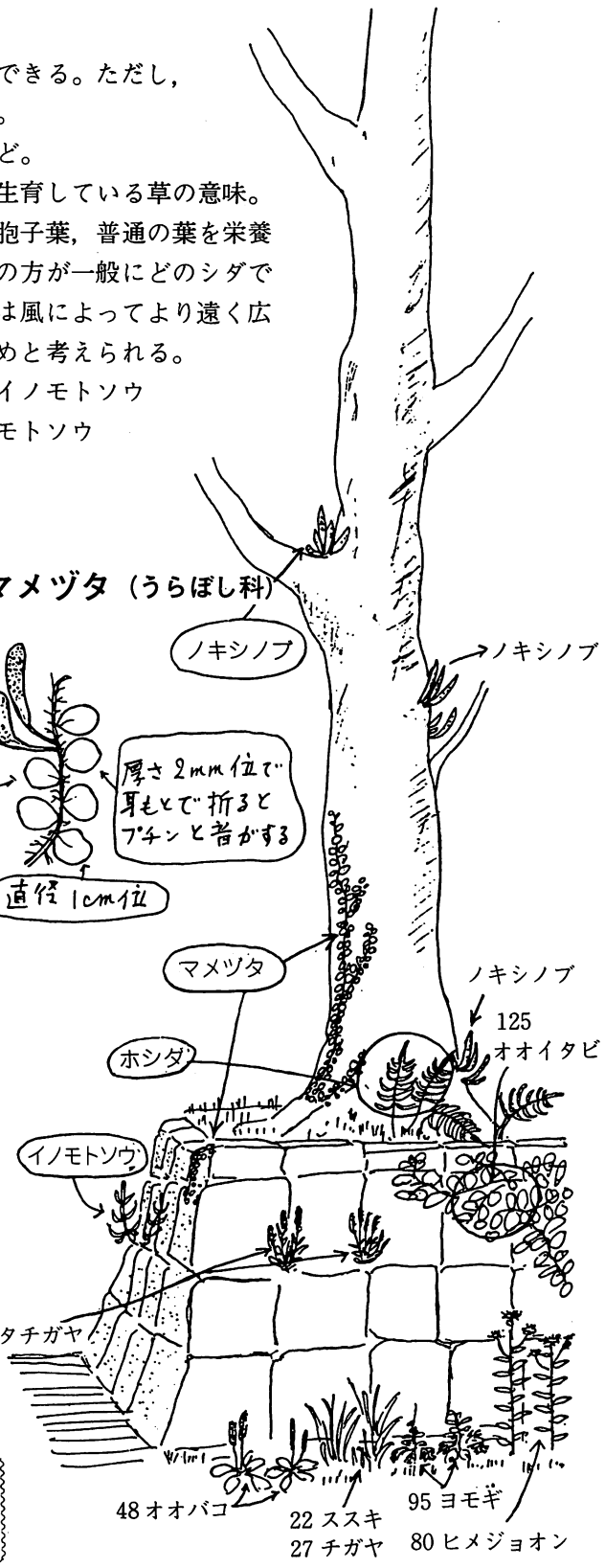
**場所** 人家周辺の石垣や道路ばたのやぶ、山地。やりの穂先に似る→ホシダ

人家周辺のシダで、このように先の方が急に細くなっているのはまずホシダである。

全体やわらかく、紙のよう、軽い感じのうすい葉

一番下の葉脈はととなりつながっている。ホシダの特徴。

**似た植物** ない



## 2 ウラジロ (うらじろ科)

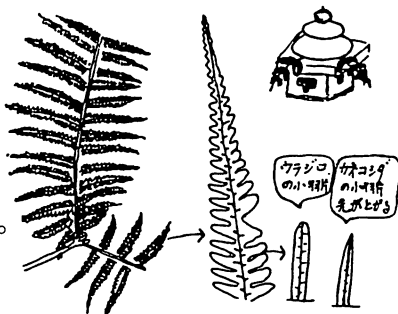
**時期** 常緑。年間を通して見られる。

**場所** 林の下草。乾燥したやや明るい場所に生える。

**解説** 葉は左右2葉。よく成長したものは数段に葉をふやし、高さ2~3mにもなる。ウラジロの名は、葉裏が白色であるところからついた。正月の飾りにする。

**似た植物** カネコシダ

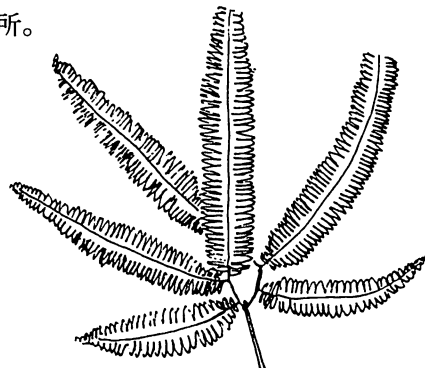
ウラジロによく似て、小形、裏面は黄緑色、小羽片は狭くとがる。



## 4 コシダ (うらじろ科)

**時期** 常緑。年中見られる。

**場所** 林の下草。乾燥した明るい所。



**解説** 葉の分かれ方が独特で葉柄の先に左右2枚の葉があり、その間からまた同じ形の葉がでる。葉面は6枚ある。(ウラジロは通常2枚)。

## 7 ゼンマイ (ぜんまい科)

**時期** 夏~秋。胞子が見られる時期は春の初め。

**場所** 川岸など水分の多い土手、草地に生える。

**解説** 茎は地面をはい、大きな株となり、葉は集まって出る。春の初め栄養葉と胞子葉が出る。巻いている若い葉を採取し、釜でゆで乾したものを「乾しぜんまい」といい、料理に使う。

胞子をつくらないで栄養をつかさどる葉のことを栄養葉といい、胞子をつくる特別な形の葉を胞子葉という。これら2型の葉をもつシダ類に、ゼンマイ、スギナ、シシガシラなどがある。

**似た植物** ない



## 14 ワラビ (わらび科)

**時期** 多年生草本で、地上部は冬に枯れる。

**場所** 全国いたるところの山野。

日当たりのよいところを好む。

春、若芽を食用にする。また根茎をたいたいて、でん粉をとる。

ワラビもゼンマイと同じように、胞子をつくって繁殖するが、ワラビでは特別な胞子葉をつくらず、ふつうの葉の裏にたくさんの胞子のうをつける。

**似た植物** ヒメワラビ



## 6 スギナ (とくさ科)

似た植物 トクサ イヌトクサ

**時期** 常緑。ツクシは早春地上に頭を出す。

**場所** 土手や道ばた、畑に生える。

**解説** 多年生草本で地下茎は長く地中を横にのび、節から地上茎を出す。地上茎には孢子がつくもの(ツクシ)とつかないものの2型がある。孢子がつくものはその形が筆に似るところから土筆と呼び、食用にされている。



## 5 ゲジゲジシダ (おしだ科)

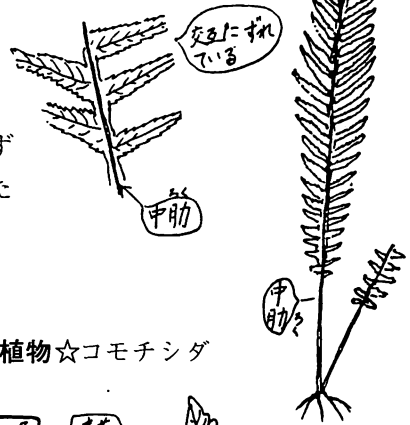
**時期** 常緑。一年中見られる。

**場所** 陰地に最も普通に見られるシダ。

湿った土手や崖などに垂れ下がるように密生している。

**解説** 全体に褐色の毛が多い。分かれた葉が交互にずれて出る。この葉の感じを「ゲジゲジ」の脚にみたてたものである。

似た植物 なし



## 10☆ハチジョウカグマ (ししがしら科) (台湾ンコモチシダ)

似た植物 ☆コモチシダ



**時期** 常緑。年間を通して見られる。

**場所** 山地、崖に垂れ下がるように生え、平たん地にはない。

**解説** 似たものにコモチシダがある。どちらも葉の表面に多数の小さな芽をつくり、これが地面に落ちて育つ。これは不定芽といって葉の一部が変化してできたものである。他にハイコモチシダがあるが、これは平たん地に生育し、地面をはうように見える。

### 3 オニヤブソテツ (おしだ科)

**時期** 常緑のシダで年間を通して採集できる。

**場所** 海岸近くの岩場にはほとんどといってよいほど生育しており見つけやすい。日当たりのよい林縁部など。

**解説** 葉に光沢があり、ごわごわしていて、みるからにじょうぶそうなシダである。

葉の長さは、ふつう50cm程であるが大きなものは1mになる。

葉のぎざぎざを → 鋸齒 (きょし)  
 のこぎりの歯のようなという意味  
 ぎざぎざがなければ ⇒ 全縁 (ぜんえん)

葉の先端部はぎざぎざなし  
 ぎざぎざに付いていたり、いじかたりと変化がある



### 8 タマシダ (しのぶ科)

**時期** 常緑のシダ，年間を通して採集できる。

**場所** 海岸近くの岩場や道路ばた，林縁などに群生する。

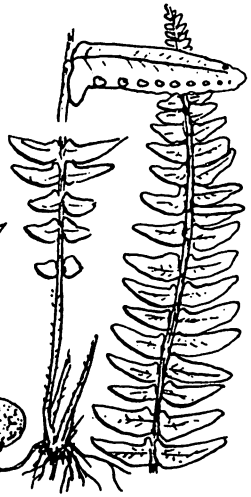
桜島の溶岩原や街路樹として植えてあるフェニクス (カナリーヤシ) などに着いて生育しているものもよく見かける。

**解説** 根を掘ってみると、図のような球状のかたまり (貯蔵器官) がついている。これからタマシダの名が付いた。

いけ花などによく利用されている。

**似た植物** セイヨウタマシダ

50cm 位



### 12 ホラシノブ (わらび科)

30~50cm 位

**時期** 常緑。年間を通して採集できる。

**場所** 道路ばた，山地の崖や崖下，林縁部，畑の土手下など。

**解説** 洞シノブの意味ではほら穴に生育することよりついた名前であるが，もちろんまっ暗な中には生育しない。

やわらかい緑色のシダで，タチシノブと感じが似ている。

葉の先はつぶれたように平たい

根茎は短くよこ3, 7, 出する

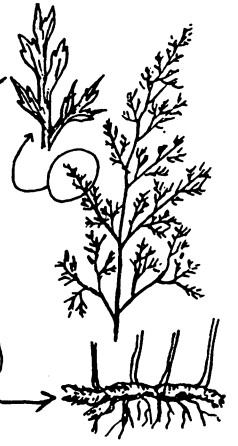
**似た植物**

海岸地には葉がぶ厚いハマホラシノブがある。

**似た植物** タチシノブ (わらび科)

葉の先はとがる

根茎は横に長い

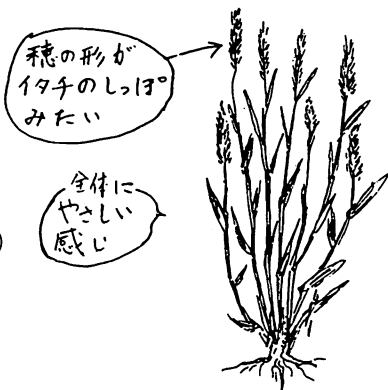


## 15 イタチガヤ (いね科)

時期 6～10月頃に穂

場所 湿った崖や土手、あるいは人家周辺の石垣などに多い。

解説 平地に生育しているイタチガヤはまずない。必ず斜面に生育している。茎(いね科の茎を稈かんという)は細く硬い。一株ごと密にかたまっており(そう生するという)遠くからでもすぐわかる。高さは10cm程。穂の形をイタチのしっぽに見たててこの名がついた。



穂の形がイタチのしっぽみたい

全体にやさしい感じ

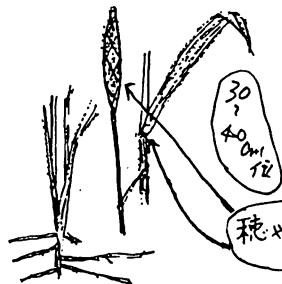
高さ 10cm位

## 18 ケカモノハシ (いね科)

時期

← 7月～9月頃に穂 4～6月頃に穂 →

場所 いずれも海岸の砂丘地



30? 40cm位

穂や節に毛が多い

似た植物

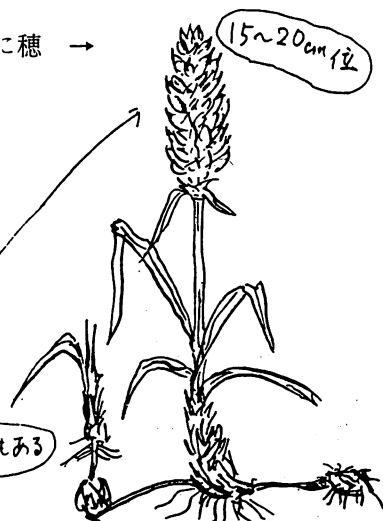
← カモノハシ

海岸砂丘地には少なく、原野や海岸近くの草地に多い。



穂が二つに割れるのをカモノのくちばしに見たてて付いた名

## 19 コウボウムギ (いね科)



15~20cm位

麦の穂に似るが食用とはならない

似た名前のコウボウシバもある

**砂丘の植物** 下の図は、海岸砂丘地の代表的な植物の様子を描いたものです。強い日光の直射を受ける砂浜で、植物はどのようにして乾燥から身を守っているのでしょうか。

コウボウムギの芽は足で踏むとつき刺さるほど硬く、まるでよろいを着ているようです。ネコノシタの葉は分厚くケカモノハシは毛でおおわれています。また、いずれも根は地下深く伸びています。「水」を確保する工夫と「確保した水」を逃がさない工夫をしているのです。



## 16 エノコログサ (いね科)

**時期** 夏から秋に穂

**場所** 空地や道ばた、畑など。

**解説** 1年草、花穂を小犬に見たてて「犬ころ草」とした。ネコジャラシの名もある。花穂や葉、茎に紫色の強いものがあるが、それをムラサキエノコロと呼んでいる。

似た種類が多く区別は難しいが、ループで拡大しながら細部を観察するのは適した材料である。

**似た植物**

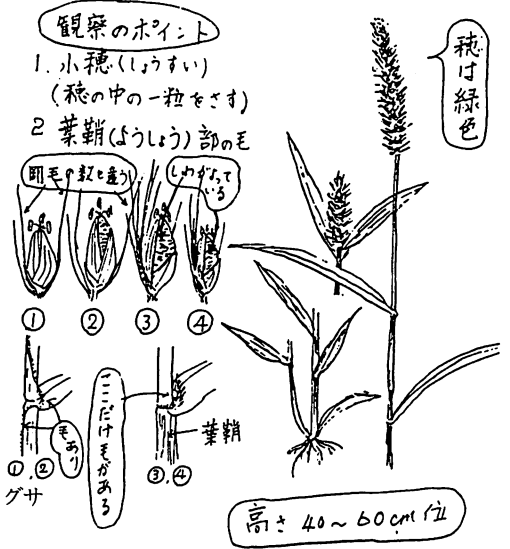
アキノエノコログサ(緑・穂が垂れる) ③キンエノコロ

キンエノコロ(黄金色の穂)

④コツブキンエノコロ

コツブキンエノコロ(黄金色・最も多く見られる)

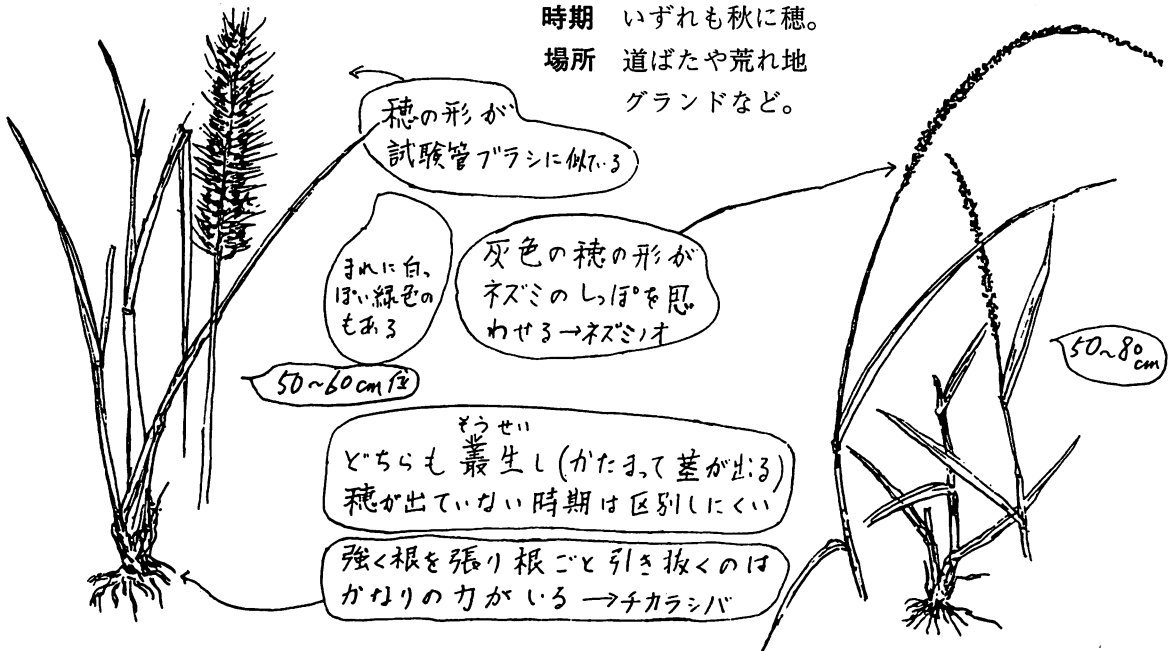
ハマエノコロ(海岸に多い・剛毛が長く穂は卵形)



## 26 チカラシバ (いね科)

**時期** いずれも秋に穂。

**場所** 道ばたや荒地  
グラウンドなど。



**解説** 穂の出る時期に見ると特徴がはっきりしており、覚えやすいもののひとつ。いずれも昔の子供達の遊びにとり入れられていた植物。チカラシバの穂を背中にいれたり、ネズミノオで輪をつくったり、あるいは草原をはだしでかけまわりながら、図のように結んで、足をひっかけるワナをこしらえるなど、大方の大人が体験している。チカラシバは大人でも根ごと引き抜けない。体験を通して名前を覚えたいものの1つ。



## 17 オヒシバ (いね科)

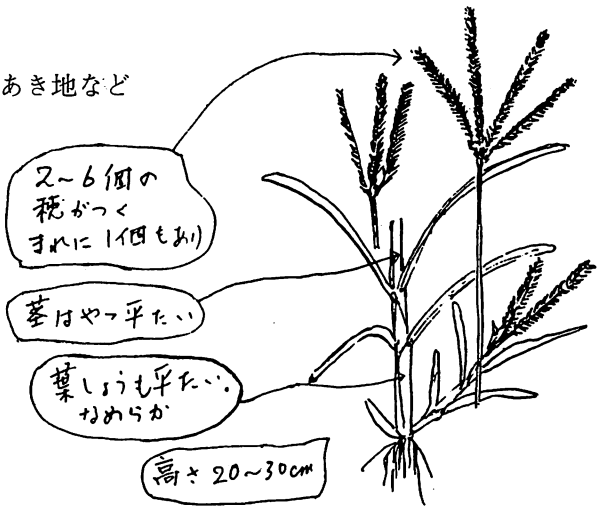
**時期** 8~10月頃に穂

**場所** 日当たりのよい道ばた、荒地、あき地などに普通に見られる。

**解説** 茎や葉は極めて強い。“雄<sup>お</sup>白<sup>ひ</sup>芝”の意味で強い日ざしのもとでもよく茂ることより付いた名。熟すと果実がポロポロと落ちるが、これは熱帯出身であることを示す特徴とされる。

茎や根がじょうぶであることから、チカラグサともよばれる。

**似た植物** アフリカヒゲシバ



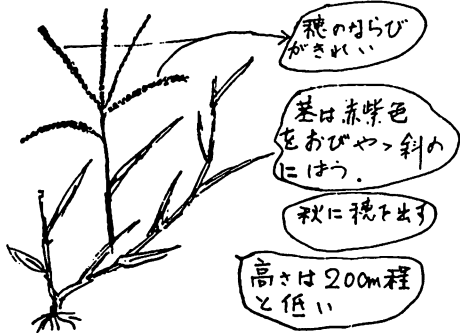
## 34 メヒシバ (いね科)

**時期** 7~9月頃に穂

**場所** 畑や荒地、道ばたなど。

**解説** 県本土では“ホトクイ”の名で有名な畑の雑草。

**似た植物** アキメヒシバ

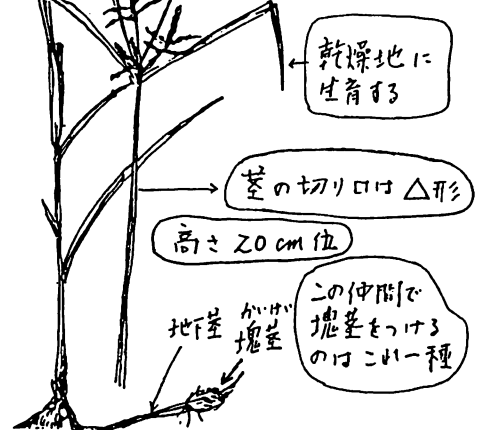


## 31 ハマスゲ (かやつりぐさ科)

**時期** 7~9月頃に穂

**場所** 畑地や海岸の砂地、道路ばた、市街地のグリーンベルト内、街路樹の根元など。

**解説** 長い根茎を地中にのぼして繁殖する。ところどころに小さなコブ状のかたまり(塊茎)ができ、そこから発芽する。そのため除草には手間がかかる。コボシとかコブシの名で呼ばれているがこれは単なる方名ではない。この根を薬用にし、それを“香附子”と呼んだ。この根には香気があることも確かめてみよう。(そんなに強い香りではない)



21 シナダレスズメガヤ (いね科)

22 ススキ (いね科)

27 チガヤ (いね科)

81 ナンバンギセル (はまうつぼ科)

時期 夏に穂

秋に穂

5~6月に穂

秋に花



解説

下図のように崖の土砂流出を防ぐために植えてある帰化植物。

かみの毛が垂れ下がったように見える。ウィーピング・ラブグラスの名で有名。

似た植物

トキワススキ 常緑。2~3mと大きい。

ハチジョウススキ 葉は柔らかく、ふちもほとんどザラつかない。ススキはかたい。

解説

草地の代表みたいな植物。6月頃まっ白い穂を出す。春の終り頃のつぼ

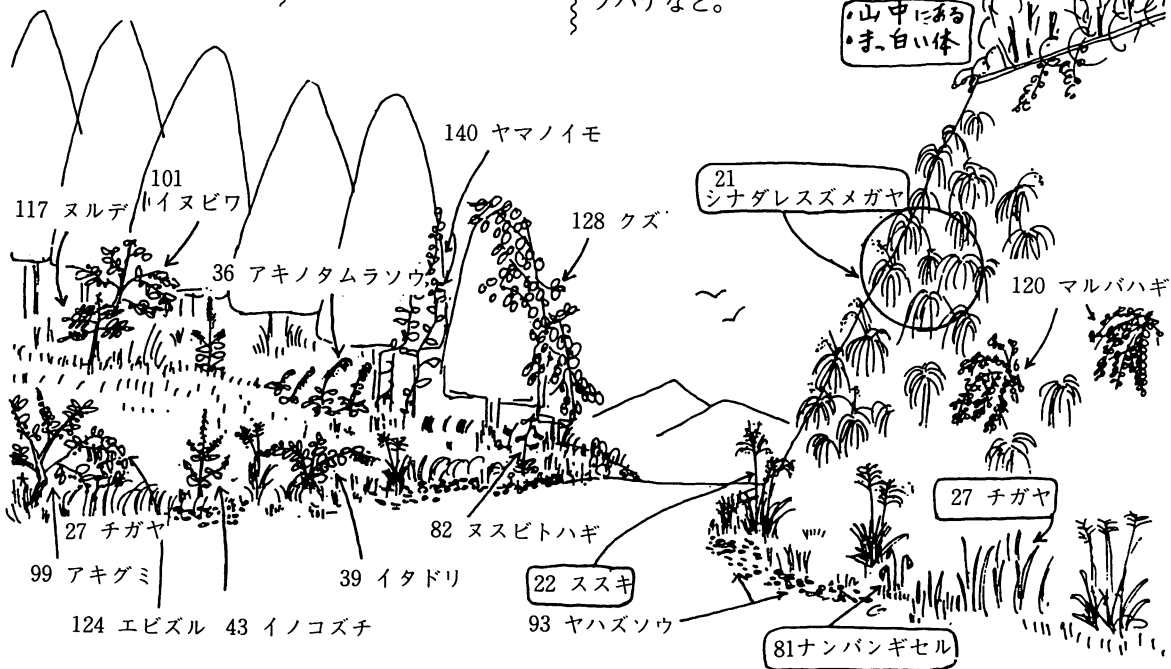
横に出る一本よりたてが長い。みをツバナ(茅花)といひ、柔い穂を食べたのは昔の子供達だけ(?) 方名はマカヤ、オバナ、ツバナなど。

解説

ススキの根元でよく見つかる。ススキの根から養分をとる寄生植物。形がきせるに似る。

似た植物

ギンリョウソウ



### 23 スズメノカタビラ (いね科)

時期 3~11月に花穂をつける。

場所 人家のまわり。

畑に多い。

解説 名まえは小穂が群れ集まった花穂の形をスズメの使うカタビラに見たてたもの。

似た植物 ニワホコリ  
道ばたに生える。

花は7~10月, 赤紫色,  
茎長7~25cm。

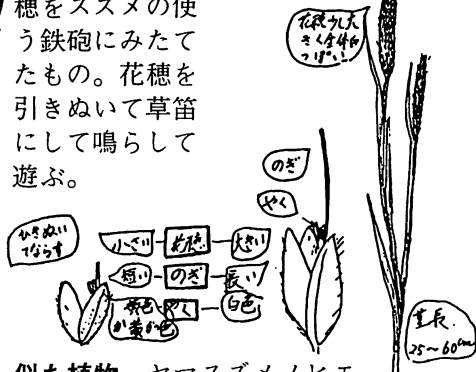


### 24 スズメノテッポウ (いね科)

時期 4~6月白緑色の花穂をつける。

場所 田の中やあぜ道に多い。

解説 名まえは小形の円柱状花穂をスズメの使う鉄砲にみたてたもの。花穂を引きぬいて草笛にして鳴らして遊ぶ。



似た植物 セトガヤ (いね科)  
5月に白緑色の花穂。スズメノテッポウとよくまじって生える。

### 25 スズメノヤリ (いぐさ科) (スズメノヒエ)

時期 4~6月に花穂。

場所 畑の土手や野原, 芝生の中などに生える。

解説 枯れた草地に, これが目立つようになるころ, 春たけなわとなる。葉のふちに白い長い毛がまばらに生える。穂の形が練習用のヤリの形に似ている。



「スズメ」……小さいという意味をもつ。



似た植物 ヤマスズメノヒエ (いぐさ科)  
山地の草地に生える。鹿児島では霧島山など登山の途中によく見かける。

長い柄をつけた花穂を5~10個つけ, そのつけねに長い葉状苞がある。



### 33 ヒメコバンソウ (いね科)

時期 5~6月に花穂をつける。

場所 道ばたや野原, 畑に生える。

解説 一年生草本で群がって生える。

夏, 茎の上に特異な形をした小穂を多数つける。

ヒメコバンソウの名は, 小さなコバン型の実にちなんだもの。これをふるると, ガラガラ音がする。昔はこれで遊んだ。



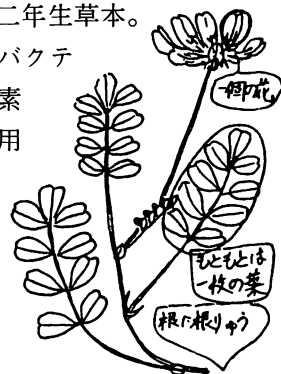
### 96 レンゲソウ (まめ科) (ゲンゲ)

時期 4~5月

場所 田に多い二年生草本。

解説 根に根瘤バクテ

リアをもち, ちっ素を貯えるため, 肥料用として田地に植えられる。レンゲ, ゲンゲの花と言い親しまれる。



## 20 コオニユリ (ゆり科)

時期 7～8月に花

場所 畑の土手や林の周辺部、人里付近の土手。

似た植物

オニユリ

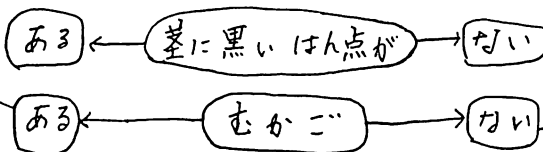
解説

いずれも似たような環境に生育するが、次のような点で見分けられる。

コオニユリ  
(ゆり科)



1~1.5m



花はいずれも朱赤色で、花弁に黒いはん点がある。

## 28 ツユクサ (つゆつき科)

時期 夏～秋に花

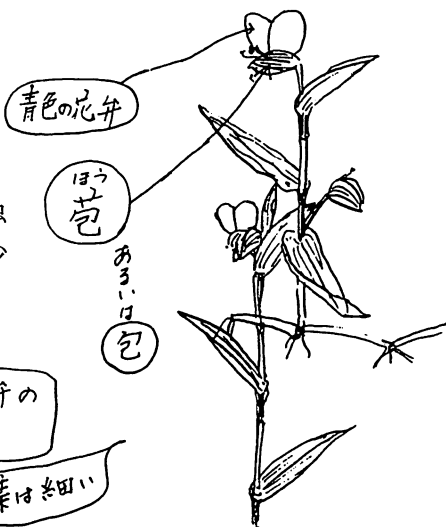
場所 畑地や人家周辺の空地、庭など。

似た植物

マルバツユクサ

解説

花はきれい目立つが、意外と虫やチョウがとまらないのは、蜜が少ないからだといわれる。



ふちは波うつようだしわがある

葉の先はとがらず全体に広い

茎に毛のあるもの、花弁の白いものなどもある。

葉は細い

## 32 ヒメヒオウギズイセン (あやめ科)

時期 7～8月頃に花

場所 日当たりの悪いやや湿った所。人家周辺の山かげや土手、道路ばたなど。

解説 ヨーロッパで園芸用に作り出された交雑種。

明治の中頃に渡来したといわれる。

本県では「コメバナ」「タウエバナ」「ピーピーグサ」などの方名で呼ばれている。

(名前の由来)

ヒオウギ

↓  
ヒオウギズイセン (葉がヒオウギに、花はスイセンに似るといふ意)

↓  
ヒメヒオウギズイセン (ヒオウギズイセンに似るが小型の意)

高さ 50cm~1m



### 35 アキノノゲシ (きく科)

時期 秋に花。

場所 人里付近から山地まで道ばたや草地に普通に見られる。

解説 うさぎのエサにする。同じく、うさぎやにわりのエサ用に人家付近で栽培しているのは、リュウゼツサイ (きく科) という植物。



赤いすじがはいる

リュウゼツサイ (きく科)

名の由来

ノゲシ(ハルノゲシ)に似ており秋に花が咲くから

高さは1~1.5m位

葉はうすい緑色

茎葉はやわらかい

毛はない。光沢もない

茎や葉を折ると白い乳液が出る



### 36 アキノタムラソウ (しそ科)

時期 夏~秋にかけて花。

場所 山野にごく普通、ちょっとした林や森のある所なら、道ばたですぐ見つけられる。

解説 秋の山野を彩る主役のひとつが、本種をはじめとするしそ科の植物。

茎が四角、葉は対生、そしてしそ科特有の香気をもつのがしそ科の特徴。

調べてみよう まぎらわしいものが多い。挑戦してみませんか。

秋のしそ科の植物 ・ヤマハッカ ・ヒメジソ ・レモンエゴマ ・ヒキオコシ ・イヌコウジュなど。

高さ20~30cm位

いく段にも花が咲く

茎が四角

小さな葉が3つたけ5つたけの枝だけ

葉は黒みを帯びた緑色



### 37 アキノキリンソウ (きく科)

時期 秋に花。

場所 日当たりのよい山野、土手などに多い。

解説 秋、車で道路を走っていると、道路わきの土手などに黄色い小さな花が目につく。他にまぎらわしいものはない。茎を折っても白い乳液は出ない。

同じキク科でも白い乳液のあるなしで次のように分けられる。

タンポポ科…白い乳液が出る。

(タンポポ・アキノノゲシなど)

キク科 < キク科…白い乳液は出ない。

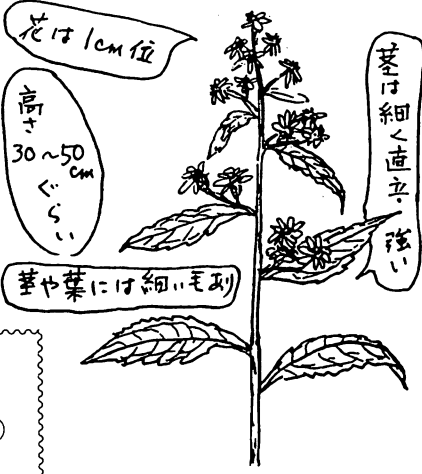
(アキノキリンソウ・ヨモギ・ヨメナなど)

花は1cm位

高さ30~50cmくらい

茎や葉には細い毛列

茎は細く直立、強い

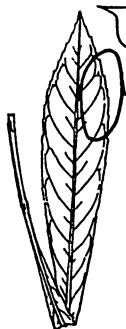


### 38☆アレチマツヨイグサ (あかばな科)

似た植物 ☆オオマツヨイグサ (あかばね科)



時期 夏に花  
場所 荒地や道ばたに多い。  
解説 ここにあげた4種は、いずれも野生化した帰化植物。



黄色い花 花 大型の黄色い花  
根元近くの葉にもたくさんのさび菌がある  
根元近くの葉は、よはらにギザギザがある



時々見かける程度でわりない



花が夕方～夜に開くことより待宵草と名がついた。朝方には花はしぼむ。

### ☆マツヨイグサ

### ☆コマツヨイグサ



5月～6月頃が花で、上の2種より時期が早い。高さ50～70cm程。葉は細い。人家付近で見かけるが少ない。

5月頃から花が咲く。いたる所の荒地や道ばたで見られる。海岸に多く見られたのが今では内陸部で普通。小型で地をほう。20～30cm程。

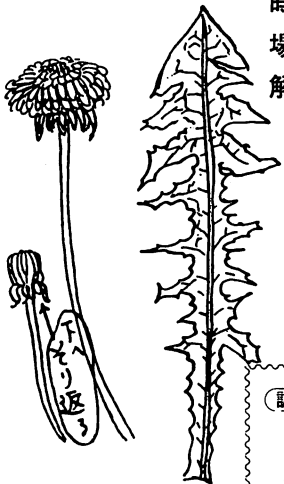


花はしぼむと赤みを帯びる。そのため遠くからは赤や黄色の花が混じっているように見える。

葉は波打つような感じ

### 68☆セイヨウタンポポ (きく科)

似た植物 ☆アカミタンポポ



時期 春～秋に花  
場所 荒地や道ばた、石垣など。  
解説 最近、右図のアカミタンポポが増えており、特に、鹿児島市内ではその増加ぶりが目立つ。ときどき☆シロバナタンポポもある。

葉での区別が難しい  
灰色がぬいる 葉の色が 赤が色



39 イタドリ (たで科)



夏～秋に花 ←時期→ 夏～秋に花  
 山野に多い。 ←時所→ 特に人里周辺の  
 桜島の溶岩原に 石垣や道ばたに  
 も多く見られる。 多い。

解説

花のない時期だと感じが似ていて  
 まちがいやすい。区別点は次のとおり。

葉の  
 下端はまっすぐに  
 切ったような形

葉は黒っ  
 ぽい

ある

茎にはん点が

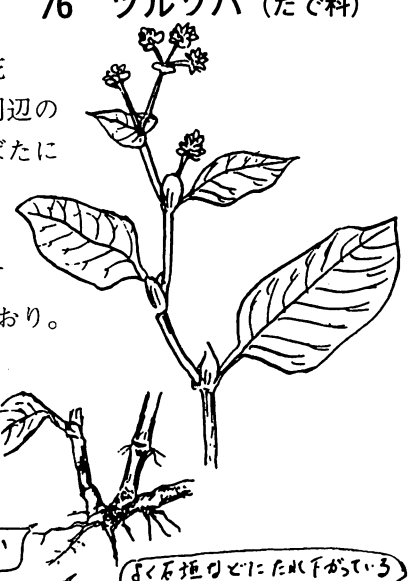
ない

中空(からっぽ)

茎の中は

つまっている

高さ 0.5～1.5 m 程



よく石垣などにたぐわがっている

91 ミゾソバ (たで科)



時期 秋に花

場所 人里周辺の川べりや、池のまわりなど水辺に群生する。

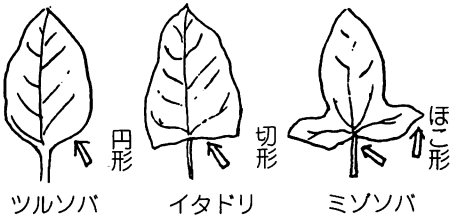
解説 みぞによく繁っており、ソバに似ていることからこの名  
 がついた。花は淡紅色で美しいが、正しくは花卉ではなく、ガ  
 クの色である。時に白色のものもある。

茎がさや状の托葉たくように包まれるの  
 はたで科の特徴である。  
 見分けるときの目安になる。

40～50cm 位

葉の形にも特徴があります。

葉の茎部の形と呼び方



似た植物 ママコノシリヌグイ  
 (トゲソバ)  
 (たで科)

茎は四角形で  
 下向きのトゲが多い

野原や道路ばた、  
 川岸などに多い。

50cm 位

夏に淡紅色の花



## 40 イヌガラシ (あぶらな科)



名の由来  
たばられ小がらし  
の意味

時期 春に花

場所 みぞのまわりや道ばたに多い。

解説 ごくありふれているのに、見過ごされている植物。花も目立たないし、姿もこれといった特徴がない。しかし、いわゆる“普通種”といわれているこれらの植物こそが、身近な自然の重要な一員である。

似た植物 ミチバタガラシ (あぶらな科)

- 外見はよく似ているがやや小型。
- 人家周辺の石垣などに多い。

実はまずぐしているから区別しやすい

## 41 イヌタデ (たで科)



時期 6月頃から10月頃まで花が見られる。

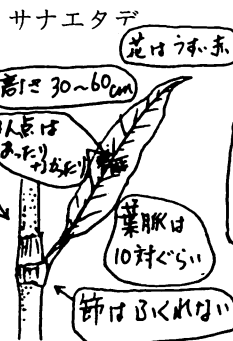
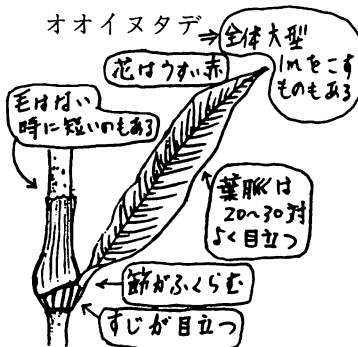
場所 田や畑に多い。道ばた、あき地の雑草でもある。

解説 「たで食う虫も好きずき」のことわざで有名。しかしこの場合は「辛い」葉を食う虫のことをさしているだろうから、この「たで」は葉に辛みのある「ヤナギタデ」と思われる。イヌタデは葉に辛みがなく、食用(さしみのつま等)にならない。別名をアカノマンマ(花を赤飯に例えた)というが、本県でもアカマンマとかサデクサなどの方名がある。

この毛の長さは葉しょうの長さと同様  
葉しょう  
(茎をとりよさやのよう部分)

葉しょうの毛は見分けるときのポイントになる。

似た植物



ヤナギタデ

- 40~50cm
- 葉をかむとピリッと辛いのはこれだけ。
- シロバナサクラタデ
- 50~100cm
- 毛の長さは葉しょうの1/2
- 花は白で美しい。

ポントクタデ

- 赤いまばらな花⇒
- 毛の長さは葉しょうの1/2



## 42 イヌビユ (ひゆ科)

似た植物 ホナガイヌビユ (ひゆ科)

時期 夏～秋に穂

場所 畑や荒地に多い。

解説 いずれも帰化植物。近年はホナガイヌビユの方が多いうのである。

穂がよく枝分かれする



短い 緑色 穂  
長い お色に似る 葉  
先が深く凹む 葉  
先は浅いか少し凹む



調べてみよう

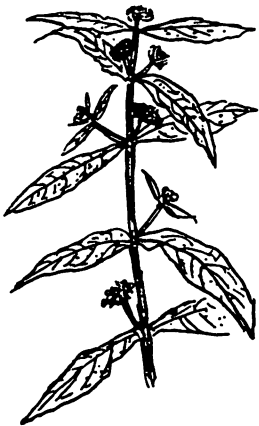
- ハリビユ イヌビユによく似るが1~2cmの鋭い針が多くつく。
- ホソアオゲイトウ イヌビユを大型にした感じで1~2m位ある。

## 69 タカサブロウ (きく科)

時期 夏に花

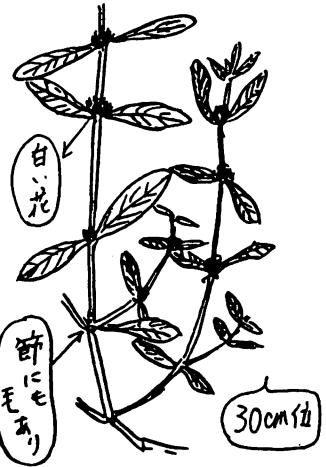
場所 田のあぜ道やみぞのまわりなど。

解説 人の名前を思わせる変わった名前であるが、この植物もありふれていながらほとんど人目をひかない植物。ツルノゲイトウとは花で容易に区別がつくが、花のない時期はまぎらわしい。



20~40cm位

柄がある 花 葉のつけ根につき柄はない  
ザラつく 葉 花めらか  
茎 角ばって2すじの毛がある  
丸く全面に毛がある



## 29 ネジバナ (らん科)

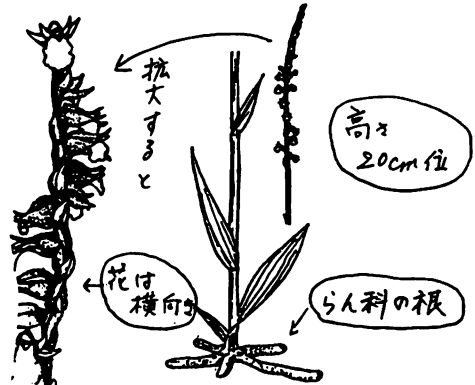
時期 夏に花

場所 草地や芝ふの中によく出てくる。

解説 らん科の植物は、一般に山林内に生育しているが、この種は人里近くに生育している。

花が図のようにねじれてつくのが特徴。

1つ1つの花をよく見ると、ほぼ横向きについている。 別名 モジズリ



### 43 イノコズチ(ヒカゲイノコズチ) (ひゆ科)

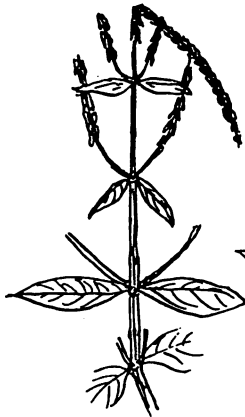
普通イノコズチと呼んでいるのは下の2種、イノコズチとヒナタイノコズチである。路傍で見かけるのはヒナタイノコズチが多い。

時期 秋に実をつける。

場所 山地の路傍や林内、木かげの所  
イノコズチ

似た植物 ヒナタイノコズチ

場所 道ばたなど日当たりのよい所。



解説

秋に山野を歩くと、よくこの実がズボンなどについてくる。

茎や葉は毛が少い

茎や葉に毛が多い

葉はうすい

葉は厚ぼた

40~80cm

葉のふちは波うつようなしわがある

40~80cm位



似た植物

ヤナギイノコズチ

山中にあり、葉は細長く光沢がある。

### 49 オナモミ (きく科)

似た植物 オオオナモミ



時期 秋にトゲのある実。

場所 荒地や道ばたに多い。

解説

名前を知らなくても、この実を知らない人は少ないだろう。衣服につけて遊んだ植物。〈これも昔の子供のみ?〉

近年はオオオナモミが増えている。

50cm~1m位

表面に毛あり  
光沢なし

実 毛がなく光沢あり

独特の臭気もある

茎や葉柄はよく紫色をおびる

ひどくザラつく



調べてみよう

オナモミ ↔ メナモミと名前が対になっている。メナモミの実がベトつくのは、粘液を出すからである。



動物の体に着して種子がばらまかれる。

メナモミ

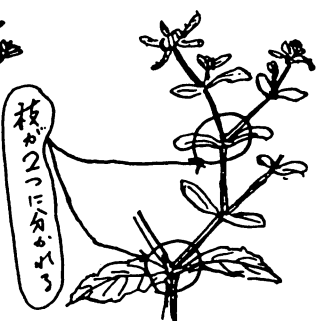


毛 多い 少ない

コメナモミ



ツクシメナモミ



枝が2つに分かれる

#### 44 ウマノアシガタ (きんぼうげ科)

時期 4～6月に花。

場所 山野の草地に生える。

多年生草本。

解説 根元の葉が、浅く5裂し、はなれて見ると円形で、馬の足形に見える。有毒。



#### 56 キツネノボタン (きんぼうげ科)

時期 4～9月に花が咲く。

場所 山地の道ばた、小川のへりに多い。

解説 野原に生えて、葉がボタンの葉に似ていることからこの名がついた。有毒。



#### 47 オオイヌノフグリ (ごまのはぐさ科)

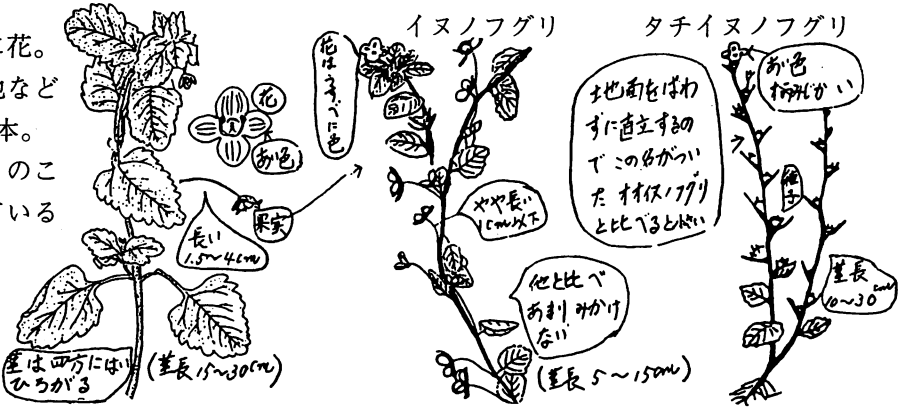
時期 3～7月に花。

場所 道ばたの草地などに生える。二年生草本。

解説 果実がイヌのこう丸(ふぐり)に似ていることから付いた名。

その後、この花にはいろいろな和名が寄せられたが、つ

いに変えることはできなかった。ヨーロッパ原産。明治の初め日本にわたってきてたちまち全国に広がった。



#### 50 オニタビラコ (きく科)

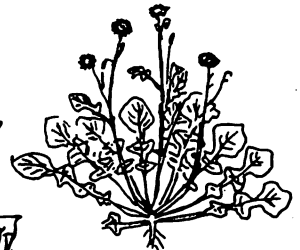
時期 本県では1年中咲いている。

場所 家のまわりの石垣などに生えている。全体に細かい軟毛がある。



似た植物 コオニタビラコ

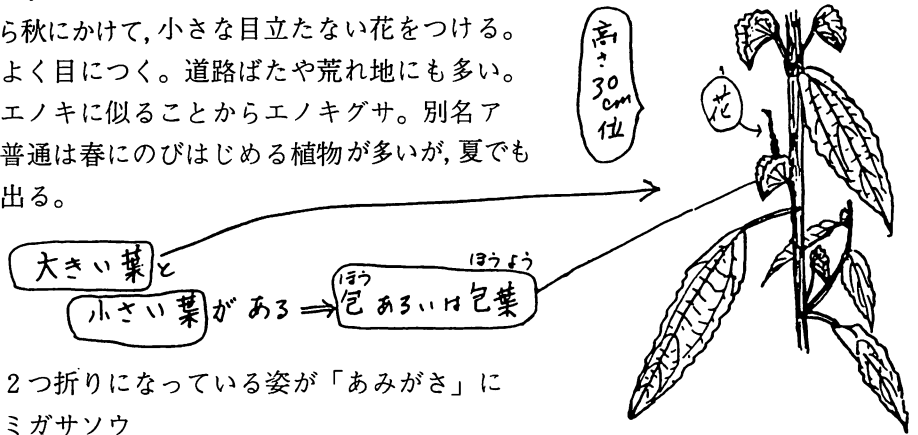
田んぼに多い。3～4月まばらに花をつける。



春の七草のホトケノザは、このコオニタビラコのことである。

#### 45 エノキグサ (とうだいぐさ科)

**時期** 夏から秋にかけて、小さな目立たない花をつける。  
**場所** 畑でよく目につく。道路ばたや荒地地にも多い。  
**解説** 葉がエノキに似ることからエノキグサ。別名アミガサソウ。普通は春にのびはじめる植物が多いが、夏でもさかんに芽が出る。

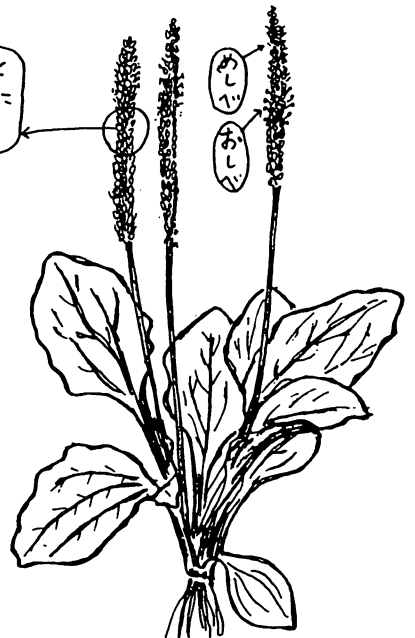
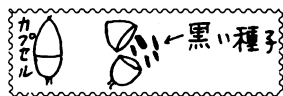
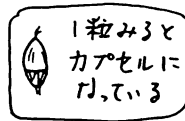


この包葉が2つ折りになっている姿が「あみがさ」に似る。⇒アミガサソウ  
 似た植物 クワクサ (包葉がない)

#### 48 オオバコ (おおばこ科)

**時期** 春から秋に穂  
**場所** 道路のへりや運動場など。  
**解説** 葉が大きいので、大葉子の名がつく。

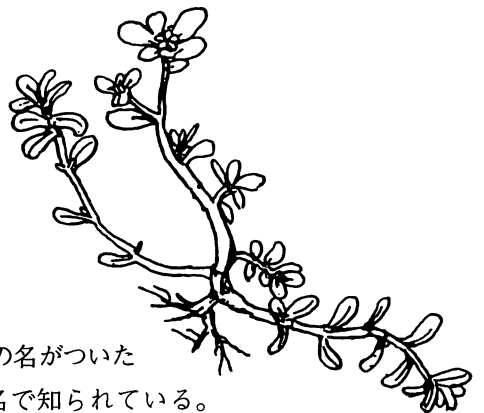
人や車によって踏まれるような所は、植物にとっても決して好ましい環境ではない。しかし、オオバコはこのような厳しい環境に生育できるしくみをもっている。葉や茎は人が踏んでも容易に折れることはない。まるでバネのようだ。カプセルから出てきた黒い種子はべとついて、くつ底や車のタイヤなどについてばらまかれる。この黒い種子はまた「車前子」の名で薬用とされる。花はめしべが先に出ておしべは後から出る。自家受粉をさける工夫である。



#### 65 スベリヒユ (すべりひゆ科)

**時期** 夏に枝先きの葉の中心に花をつける。  
**場所** 庭や畑、道ばたなど。地面をはうような感じ。

**解説** 全体に毛がなくつるつるしている。葉や茎は多肉質で水分を多く含み、夏の強い日ざしの中での生活に適応したものである。ゆがいて食べられるが、そのとき粘性があるから、スベリヒユの名がついたといわれる。ホトケミンとかブタンクサなどの方名で知られている。

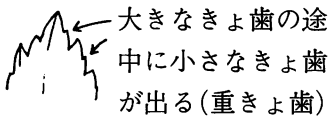


似た植物 ポーチュラカ (栽培)  
 (ハナスベリヒユ)

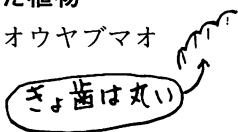
51 オニヤブマオ  
(いらくさ科)



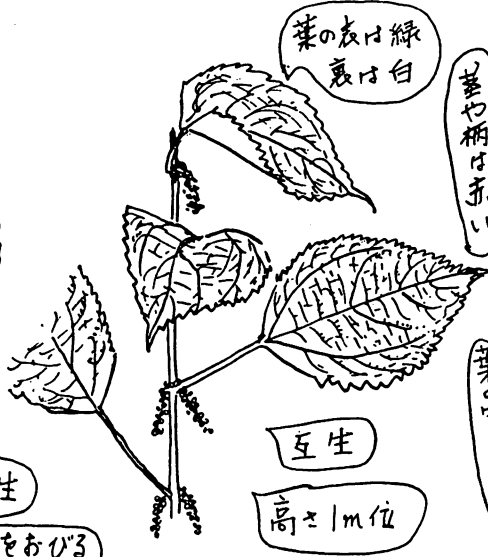
時期 夏～秋  
場所 道路ばた, 比較的海岸近くに多い。  
解説 葉はぶ厚く, ごわごわして, しわが多い。高さ1～1.5m位。



似た植物  
ニオウヤブマオ



53 カラムシ  
(いらくさ科)



時期 夏～秋  
場所 道路ばた, 荒地, 市街地にも多い。

解説 葉は互いちがいで出る  
⇒互生

葉のうらはまっ白

茎(から)を蒸して皮をとる意味

59 コアカソ  
(いらくさ科)



時期 夏～秋  
場所 山地の道路ばた, 林のへり。

解説 解説  
特に葉の柄は赤みを帯びる⇒コアカソ

山道にややたれ下がるようにして生えているのがよく見られる。

葉脈の3本は特に目立つ

似た植物  
イワガネ 互生・葉のうらは白  
ハドノキ 互生・ 緑



これがいらくさ科のイラクサです。「刺草」の文字が示すとおり, この植物全体にあるトゲ(刺毛)がささるとひどい痛みを感じます。トゲの中に蟻酸(ぎさん)という物質を含むからです。トゲも左図のように鋭くとがり, しかも折れやすくなっています。いらくさ科を示すUrtica (ウルティカ)は“ちくちくする”という意味のラテン語からきた言葉です。いかにもちくちくした感じの発音です。山かげに多い植物。体験してみますか?それとも……。

## 52 オランダミミナグサ (なでしこ科)

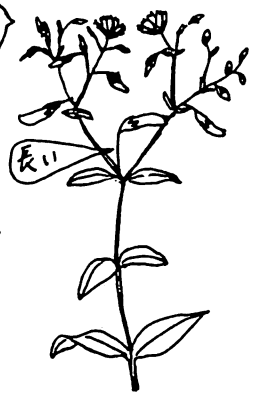
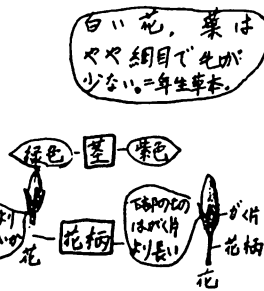
似た植物 ミミナグサ (なでしこ科)

時期 4～5月に花。

場所 道ばた、野原、畑。

解説 ヨーロッパ原産の帰化植物。最近では、昔から日本にあったミミナグサより多くなっている。こういう現象はタンポポなどでも見られる。二年生草本。

どうしてこのようなことが起こるか、調べてみよう。



解説 耳葉草は葉がネズミの耳に似ているので名づけられた。

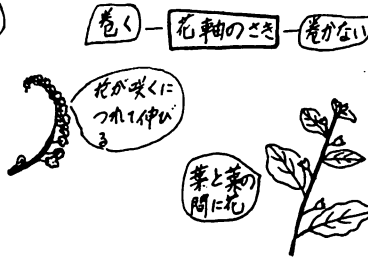
## 55 キュウリグサ (むらさき科)

似た植物 ハナイバナ (むらさき科)

時期 3～5月に青色の花。

場所 野原の道ばた、畑などに多い。

二年生草本。



解説 茎葉をもむとキュウリの匂いがある。

3～12月に青色の花。  
野原の道ばた、畑など。

解説 ハナイバナとは葉と葉の間に、花がつくので葉内花の意味。

## 62 コバノタツナミ (しそ科)

似た植物 タツナミソウ (しそ科)

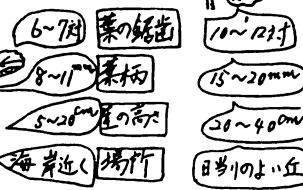
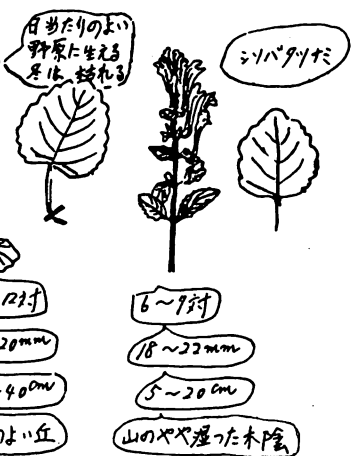
時期 5～6月に花。

場所 海岸近くに多い。冬も枯れない。

解説 茎の頂に唇形の花を多数つける。花は一方に向けて開く。

似た植物 シンパタツナミ (しそ科)

山地のやや湿った木陰に生え、葉は表裏共に毛がある。光沢をもち葉裏は紫色で、シソの葉に似ているのでこの名がつけられた。



## 54 カタバミ (かたばみ科)

似た植物 ムラサキカタバミ  
(かたばみ科)

時期 冬でも日当たりのよい所では花をつける。

場所 人里周辺にごく普通にある。

葉は茎から出ている



黄色 花 赤紫色

1~2cm位 実 ナント!!!  
実はできない

茎が横にはずして根を出す 形 根を掘るとかたまりがある

味 葉を抜くと下は白い

わりと陰の所に多い



葉は根元から直接出ている

たまねぎのような意味のりん茎

高さ 10~20cm 程

茎や葉をかんでみるとすっぱい。  
カタバミを示す学名の Oxalis は  
オキザリス すっぱいという意味のギリシャ語から

ムラサキカタバミに似たイモカタバミは、地下にイモができる。

まめ科の植物は、夜になると葉をとじて“眠る”ということはよく知られている。しかし、ここにあげたカタバミやムラサキカタバミも“眠る”ということとはあまり知られていない。下にあげたシロツメクサ(まめ科)も眠る。夏の夜は植物たちも意外な顔をみせる。カラスウリ (No.127)の花が開くのも夜、キャンプや夕涼みの折、星といっしょに夜の植物たちも観察してみよう。

## 63 シロツメクサ (まめ科)

似た植物 ムラサキツメクサ (まめ科)  
(アカツメクサ)

時期 春~夏に花。

場所 荒地、道路ばた、校庭など。

解説 クローバーの名前で知られているが、これは、この仲間を指す英語の呼び名。江戸時代末期に、オランダから贈られたガラス器を入れた箱に、割れないようこの草が詰めてあったからツメクサ。花が白⇒シロツメクサ



20cm位と長い 花の柄 ほとんどない

横にはず. 20~30cm位 大きさ 40cm位 ますぐたつ

道ばたや草地にときどきある

根を見ると粒がある 白 花の色 赤紫

根粒 (こんりゅう) 白い花が枯れたようにして残る。その時期、実は熟す途中である

## 57 キランソウ (しそ科)

**時期** 3～5月に花が咲く。

**場所** 原野、道ばたなどに生える多年生草本。

冬は、地面にへばりつくように葉を広げる(ロゼット)。このことから別名「ジゴクノカマノフタ」ともいう。

**解説** き(古語でむらさき)藍草<sup>らん</sup>は、花の色に由来する。葉草。

冬になるとほとんどの草の地上部は枯れる。キランソウやヒメジョオンのように、地面に低く葉を広げたようにして冬を越す植物がある。これらを「ロゼット」植物という。



## 64 スイバ (たで科)

**時期** 5～6月に花。

**場所** 山地の草地や田のあぜなどに多い多年生草本。

**解説** スイバは酸葉と書き、スカンボともいう。葉はすっぱい。



## 66 スミレ (すみれ科)

**時期** 4～5月に花。

**場所** 日当たりのよい原野の草地に生える多年生草本。

**解説** 花の形が大工さんのすみつぼ(すみれ)に似ていることからスミレと名がついた。

**似た植物**

- ノジスミレ (すみれ科)
- アツバスミレ (すみれ科)



## 70 タチツボスミレ (すみれ科)

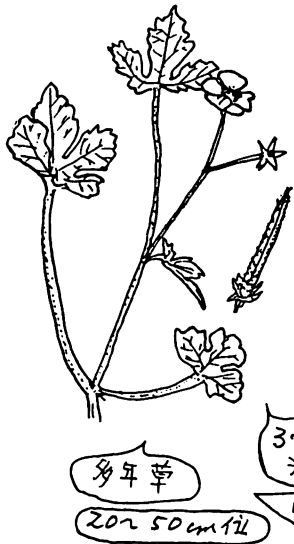
**時期** 4～5月, 淡紫色の花。 **似た植物**

**場所** 山地のややうす暗い所にみられる。 ツボスミレ(みすれ科)





## 58 ゲンノショウコ (ふうろそう科)



**時期** 夏～秋に花。  
**場所** 草地や道路ばたのやぶ。  
**解説** 薬草で有名。効き目があらわれる意味で“現の証拠”。近年、帰化植物のアメリカフウロが増えており、路傍や荒地でよく目につく。こちらの薬効は？

1cm～1.5cm 花の大きさ... 0.5～0.6cm 花  
 3～5回 深く裂ける 葉の形... 5～7回 深く裂ける  
 わりて長い 茎の毛... きめめて細く 短い

## 似た植物

アメリカフウロ(ふうろそう科)



## 131 センニンソウ (きんぼうげ科)

**時期** 夏～秋に花。  
**場所** 草地や道路ばたのやぶ、林のへり、河原のやぶなどにおい茂る。

**解説** 白い花びらに見えるのは「がく」。有毒植物で、これを便所のウジ殺しに使ったりしていた。実は3cm余りの白い羽毛が残り、風で飛ばされやすいつくりになっている。秋、この実がいっぱいからみついている様子が見られる。

調べてみよう ボタンズル(きんぼうげ科) 路傍に多い。探してみよう。

葉は対生  
 1本の柄には 3, 5, 3, 1, 1, 7 枚の葉がつく



## 139 ヤブガラシ (ぶどう科)

(ビンボウカズラ)

**時期** 夏に花。  
**場所** 人家周辺のやぶや石垣、荒地。  
**解説** おい茂ってやぶを枯らすという意味。



葉のつき方  
 この枝分かれが特徴。  
 〈ヤブガラシとアマチャズル〉  
 薬草として、一躍ブームになったアマチャズルと葉の形は似ている。もちろん実や花は違う。

葉は厚く 毛はない 区別点 葉はうすく 毛がある

## 似た植物

アマチャズル(うり科)

葉をがむと甘味がある



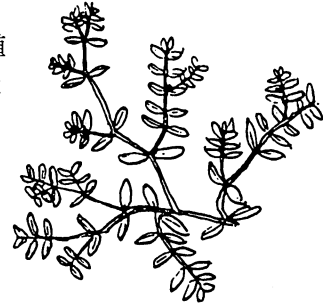
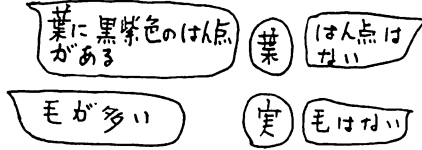
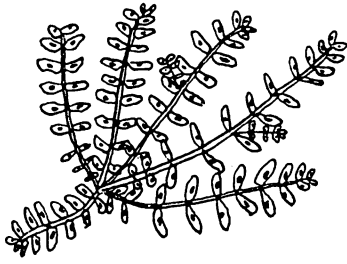
# 60 コニシキソウ (とうだいぐさ科)

似た植物 ニシキソウ (とうだいぐさ科)

時期 夏～秋に実をつける。

場所 家の庭や畑、道ばたなど、地面にはっている。

解説 庭の草むしりでおなじみの植物。ニシキソウとの区別は次のとおりである。



調べてみよう オオニシキソウ (高さ20～30cm位, 大型, 葉にはん点あり) (とうだいぐさ科)  
 シマニシキソウ (茎は紅色をおび, 全体に毛が多い) (とうだいぐさ科)

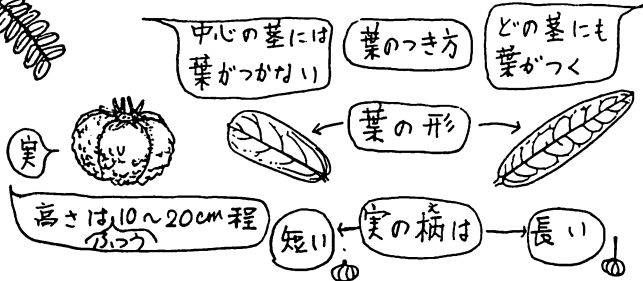
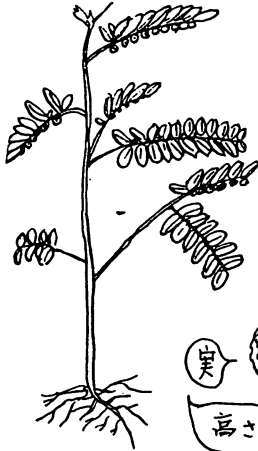
# 61 コミカンソウ (とうだいぐさ科)

似た植物 ヒメミカンソウ (とうだいぐさ科)

時期 夏～秋に実をつける。

場所 畑や庭に多い。

解説 実の形がミカンに似ていることよりコミカンソウの名が付いた。ヒメミカンソウはわりと少ないが気をつけて探してみよう。



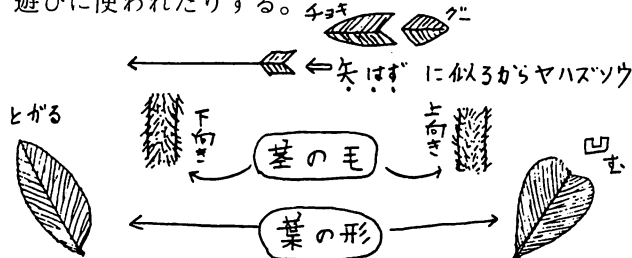
# 93 ヤハズソウ (まめ科)

似た植物 マルバヤハズソウ (まめ科)

時期 夏～秋に花。

場所 荒地や道ばた, 川の堤防など市街地から山地まで多い。地面に低くもりあがるようにして茂る。

解説 葉は図のようによくちぎれ, 子供たちのじゃんけん遊びに使われたりする。



わりと少ない

67 セイタカアワダチソウ (きく科)

似た植物 オオアワダチソウ (きく科)



時期 秋に花。  
 場所 空地, 荒地, 道路ばたなどに群生する。鉄道沿線, 高速道路の土手などにも。  
 解説 北米原産の帰化植物。  
 今ではいたる所におい茂り, 晩秋を黄色く彩っている。



1m位

晩秋 花期 夏に黄色い花  
 ザラつく 葉 ほとんどザラつかない  
 短毛が密生 茎 毛は少なくめらか

1~2.5m位

92 ヤクシソウ (きく科)

時期 9月~11月に花。  
 場所 日当たりのよい山地や畑の土手など。  
 解説 野菜として栽培されているチサ(チシャ)の仲間である。葉を切ると乳液が出るからチサと呼んだけれいが、この仲間を表わすLactucaという語もLac(乳)を出すという意味のラテン語である。

似た植物 ホソバワダン

高さ30~60cm位



葉に柄はなく 茎をまくようにしてつく

94 ヨメナ (きく科)

時期 秋に花。  
 場所 道路ばたや畑の土手など。  
 解説 若い芽はいわゆる山菜として昔から利用されてきた。美味なこと, 花がやさしく美しいことから嫁菜。これに対して, シラヤマギクにはムコナの名がある。

似た植物 ノコンギク (きく科)



高さ50cm位 毛は少ない

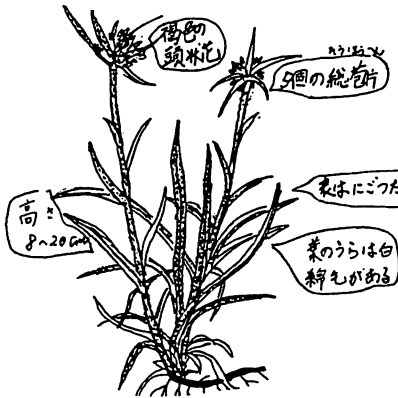
めらか 葉 毛があってザラつく  
 花 似たり冠毛 という  
 毛なし ←毛あり  
 茎 毛が多くザラつく  
 ごく短い毛はあるが目立たない

山地に多い



72 チチコグサ (きく科)

時期 5~10月に花。  
場所 日当たりのよい草地。  
多年生草本。



解説 葉の表面は、にごった緑色。裏面は茎とともに綿毛が密生して銀白色。

73 チチコグサモドキ (きく科)

時期 4~6月に花。  
場所 道ばたや植えこみなどいたる所。



解説 モドキとは、似ているという意味。帰化植物。熱帯アメリカ産。

86 ハハコグサ (きく科)

時期 4~6月に花。  
場所 みちばた、畑、家の近くなど



解説 春の七草のひとつ「ゴギョウ」はハハコグサのこと。

78 トウバナ (しそ科)

時期 5~8月に花が咲く。  
場所 山野の道ばたに多い多年生草本。

解説 葉は対生。柄があり卵形である。

似た植物 ヤマトウバナ  
6~7月山地の木かげで見かけ、白色の花が咲く。花のつきかたは、まばらである。



似た植物 クルマバナ (しそ科)

夏に淡紅色の花。山地、野原に多い。輪生(一か所からたくさんで)するので車花の名がつけられた。



84 ノアザミ (きく科)

時期 5~8月に花が咲く。  
場所 日当たりのよい草原に生える。多年生草本。

解説 ノアザミはもっとも普通のアザミで、山道や溝のふちなどいたるところに生えている。葉のふちにはすどいとげがある。

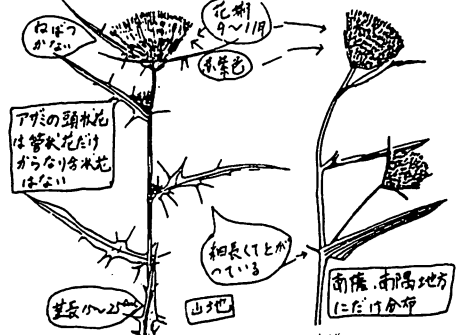
春~夏咲くアザミは本種だけ。

この他オイランアザミ→海岸の岩場や砂地の所に見られ、大形で葉辺は硬い鋭い刺がある。10~11月に花が咲く。県南部、奄美大島に自生する。茎は皮をはいで食用にする。



似た植物 ヒメヤマアザミ (きく科)

ノアザミ (きく科)



## 74 チドメグサ (せり科)

時期 夏～秋に花。

場所 人家周辺の日陰に多い。庭や芝生などにも多い。

解説 茎は細く、地をはい先の方まで立ち上がることはない。路傍に多いのはノチドメで、見分け方は右図に示した。

似た植物 こんなに多いですよという例

(全てせり科)

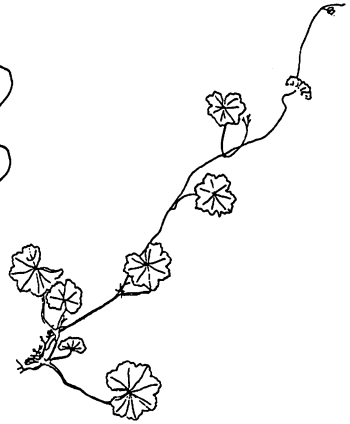
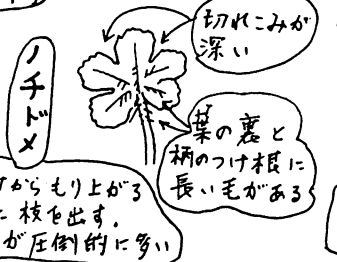
ノチドメ (路傍に多い)

オオバチドメ (山間部に多い)

ヒメチドメ (比較的高い山)

ケチドメグサ (海岸に近い所)

ヤマチドメグサ (山地に多い)



緑が濃く、小形で全体が地面にべたっとう

## 75 ツメクサ (なでしこ科)

時期 春～夏に花。

場所 庭や道ばたに多い。やや湿った日陰の所。

解説 庭の草むしりでは、必ずといってよい程お目にかかる。それほどありふれている植物。名前の由来は、葉の形が切ったツメに似ていることから。

似た植物

ハマツメクサ (なでしこ科)

(海岸近くにあり、よく似ているが葉はぶ厚い)

オオツメクサ (なでしこ科)

(帰化植物で、高さ30～40cm位になる)

全体に濃い緑色

葉は対生 (同じ所から2枚出る)

なでしこ科の植物は全て葉が対生しており、葉にきよ歯(ぎざぎざ)がないのが特徴。



高さ 10cm 位

## 77 ツボクサ (せり科)

葉の直径は3cm位

時期 夏に花をつける。

場所 人里から山地にかけての道路ばたによく見られる。

解説 実や花のつき方はチドメグサ (74番) に似ている。

似た植物

カキドオシ (しそ科)



花と実

花、実

せり科の大部分が、ニンジンのように頭に傘をさしたような花をつけるのに対し、つる性のチドメグサやツボクサは異質な感じを受ける。



## 95 ヨモギ(きく科)

**時期** 8~10月頃に茶色の目立たない花。

**場所** 田畑のあぜ道, 日当たりのよい山地や草地, 道路ばた, 荒地など。

**解説** 春先から初夏にかけての, 若葉のヨモギは一般によく知られているが, 花をつける頃, 1m近くにも成長したヨモギを見せると, 別の植物とまちがう人も多い。

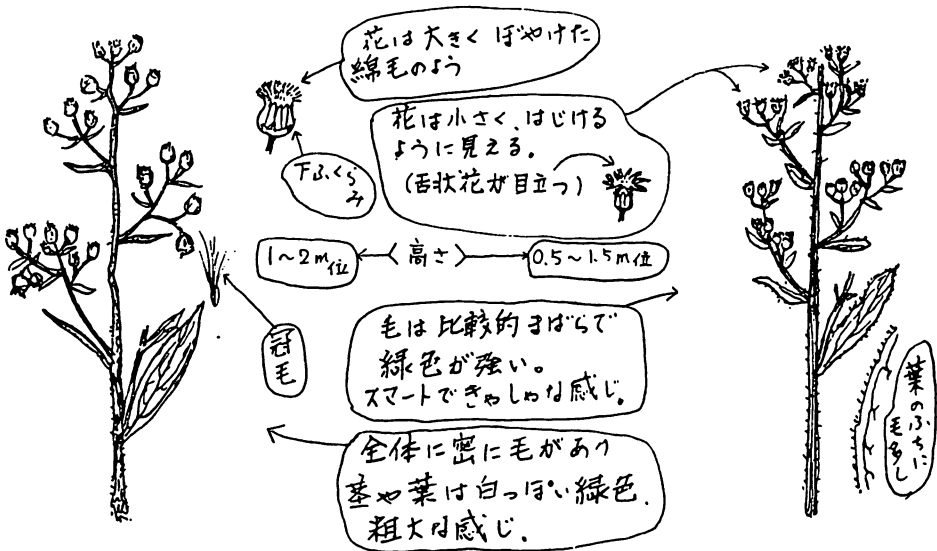
四季を通して観察することが大切であることを知る好例である。野生の“ノギク”と混生していると若葉のころは区別しにくい。しかし, 花の時期に見ると, “ノギク”がいわゆるキクの花をつけるのに対し, ヨモギは地味な風媒花をたくさんつける。花や実の時期に観察すると, その植物の特徴がよく現われる例である。

※ノギクという種名はなく, ノジギクやヨメナなどの総称。



## 46 オオアレチノギク(きく科)

## 89 ヒメムカシヨモギ(きく科)



**時期** 夏の後半から秋にかけて花をつける。

**場所** 荒地や道ばた。両者は普通混生している。森や林の中にはない。

**解説** いずれも外国からはいった帰化植物。鎮台草とか鉄道草とも呼ばれている。鉄道線に沿って広がったことからこの方名で呼ばれた。高さは1mを越す。よく似ており両者の区別は慣れないと難しいが, 一度しっかりと花を見ておくと区別しやすい。また, ヒメムカシヨモギの葉脈は浮き出るような特徴もある。

**似た植物** アレチノギク→花が5~6月頃なのですぐ区別できる。全体小型, 側枝がよく発達する。(きく科)

ハウキギク → 全体無毛で光沢がある。湿地に多い。冠毛が赤紫色で目立つ。(きく科)

90 フキ (きく科)

時期 3~5月に花。

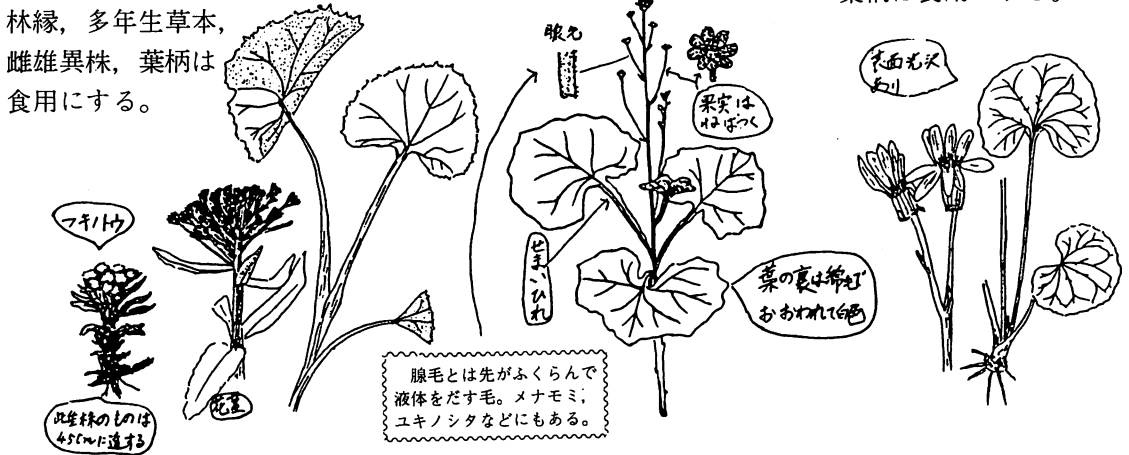
場所 少し湿った  
林縁, 多年生草本,  
雌雄異株, 葉柄は  
食用にする。

似た植物 ノブキ(きく科)

8~10月に白色の花。  
山野の林の中など日かげに多い。

ツブキ(きく科)

10~12月に黄色の花。  
海岸近くの山に多い  
葉柄は食用にする。



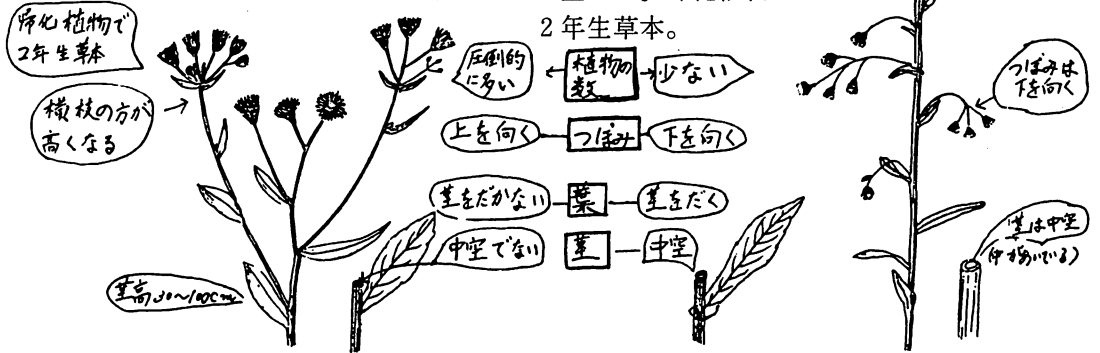
88 ☆ヒメジョオン (きく科)

時期 7~10月に花をつける。

場所 荒地, 道ばた, 土手などに生える。

似た植物

☆ハルジョオン(きく科)  
空地, 畑, 道ばたなど  
に生える。帰化植物で  
2年生草本。



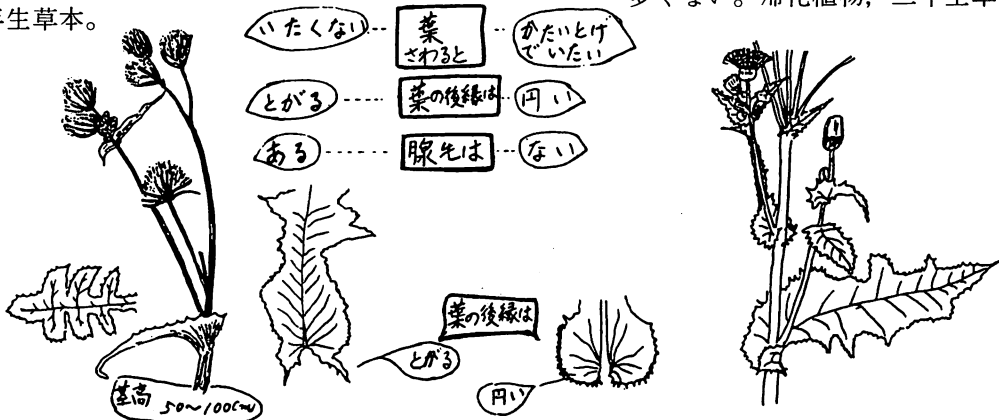
87 ハルノノゲシ (ノゲシ) (きく科)

時期 4~8月に花。

場所 原野の道ばた, 荒地に多い。  
二年生草本。

似た植物 オノノゲシ (きく科)

5~10月に黄色の花。  
荒地, 道ばたに生える。ハルノノゲシほど  
多くない。帰化植物, 二年生草本。



83 ネコノシタ (ハマグルマ) (きく科)

似た植物 クマノギク (きく科)

時期 夏～秋に花。

場所 海岸の砂丘地。

解説 吹上浜など、海岸の砂丘地に生育する代表的な植物。

葉がふ厚く、ザラつくのでネコの舌にたとえた。茎は地面を長くはう。



海岸砂丘地 場所 海岸近くのやぶ、畑、田、みそ  
柄がある 葉 柄は小さい  
花は春～秋まで

135 ハマヒルガオ (ひるがお科)

似た植物

ゲンバイヒルガオ

(ひるがお科)

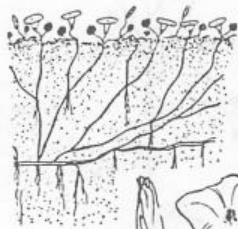
時期 5～6月に花。

場所 海岸の砂丘地、川べりや砂地のところ、土手など。

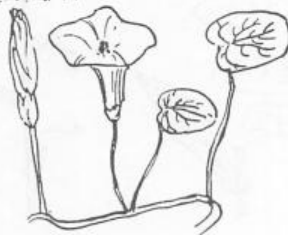
解説 もともと海浜の植物であるが、人里付近でもよく見かける。

花はうすい桃色、葉は光沢があり直径2～3cm。

ゲンバイヒルガオは、葉の形がすもうの行司がもっている軍配に似ている。こちらは海岸の砂丘地のみに見られる。



↑  
砂の中で  
白い長い  
茎を伸ばし  
ている



114 ハマゴウ (くまつぶら科)

時期 夏に花。

場所 海岸の砂丘地。

解説 砂丘をうめつくすようにしてよく茂る。長い茎を伸ばし、節から根を出す。落葉する低木。一種の香気がある。



葉は対生  
葉はビロードの  
ような毛がびっしり  
表は緑  
裏は白





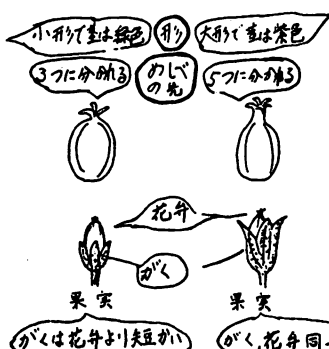
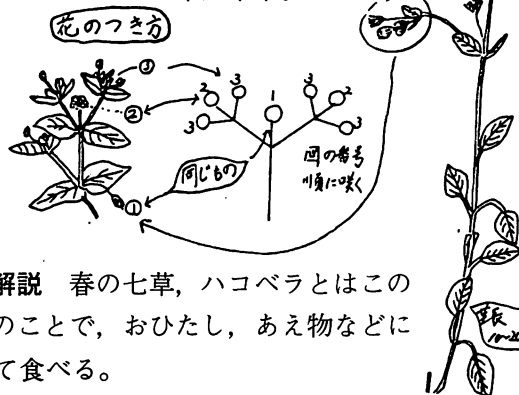
## 85 ハコベ (なでしこ科)

似た植物 ウシハコベ (なでしこ科)

時期 3～9月に白色の花。

場所 道ばた, 畑, 庭などに生える。

2年生草本。



解説 春の七草, ハコベラとはこの草のことで, おひたし, あえ物などにして食べる。

解説 ウシは牛のように大きいという意味。

## 80 ナズナ (あぶらな科)

時期 12～5月に花が咲く。

場所 畑, 道ばたなど日なたを好む。

1～2年生草本。

解説 冬はロゼット状で地面にひろがっている。春の七草の一つ。夏は枯れる。実の形が三味線のパチに似ているのでペンペン草ともいわれる。時にヤリ形の果実をつけるものもある。



## 71 タネツケバナ (あぶらな科)

時期 3～6月に花が咲く。

場所 湿地, 庭など。

解説 イネの種子(水につけてからまく)をまく頃花が咲くので, この名がついた。



「春の七草の歌」「せり, なずな, ごぎょう, はこべら, ほとけのざ, すずな, すずしろ, これぞ七草」寒い冬, 他の植物に先がけて出てくる。正月の七日の朝, 七草がゆをつくり, 7才児の成長を祝う。解説集の中に, ごぎょう(86 ハハコグサ), はこべら(85 ハコベ), ほとけのざ(50 似た植物コオニタビラコ), それに(80 ナズナ)がでてくる。すずなはカブ, すずしろはダイコンのことである。

## 79 ドクダミ (どくだみ科)

(ジュウヤク)

時期 6～7月に花。

場所 道ばた, 林の日かげに生える多年生草本。地下茎をのびてはびこる。

解説 白い花弁に見えるものは, 花の集まり(花序)を保護する総苞片で, 花にはがくも花弁もない(不完全花という)。本県ではガラツバグサの名で有名。

ハンゲショウの名の由来は, 半夏生説(7月11日頃に白い花をつける)と半化粧説(葉が半分白くなる)の2つがある。

似た植物 ハンゲショウ (どくだみ科)



## 98 アカメガシワ (とうだいぐさ科)

**時期** 夏～秋に花、実。

**場所** 山野，特に林のへり，人家の周辺，伐採地に多い。

**解説** 特に春先の若葉は赤色をおびる。

⇒アカメガシワ

落葉樹。葉は広くて（幅15cm位）柄も長い。夏に花をつけ、秋には刺のある実をつける。枝を折ると木の皮がよくはげる。

このアカメガシワや次のイヌビワ，ヌルデあるいはハゼノキやカラスザンショウ，アオモジなどは，林縁に多く見られる木である。山道を歩くと道へかぶさるようになって，必ずといってよいほど顔を出す植物たちである。



枝や葉にはこまかい  
が、色の毛がある

葉の先端は長くのびる

## 101 イヌビワ (くわ科)



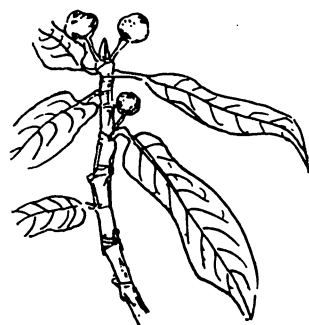
**時期** 夏～秋に実。

**場所** 林のへり，川岸，山道に多い。

**解説** 枝を折ると白い乳液が出る。実は黒く熟し食べられる。

方名で「インタブ」とか「タツノキ」「タブ」などと呼ばれている。

葉の広い型と右図のように葉の細い型があり，こちらをホソバイヌビワとよんだりする。



ホソバイヌビワ

## 117 ヌルデ (うるし科)

**時期** 夏に花。

**場所** 日あたりのよい林のへりや原野，山道などに多い。

**解説** 複葉の木は見わけにくいですが，葉の軸にひれがついて，平たくなっているのですぐわかる。

ハゼノキは，よくかぶれるがヌルデにかぶれる人は少ない。落葉樹，高さは普通2～3m程。



似た植物

無毛、先はとがる

ハゼノキ (うるし科)

この木の下を通過だけでかぶれる人もいる。葉は互生

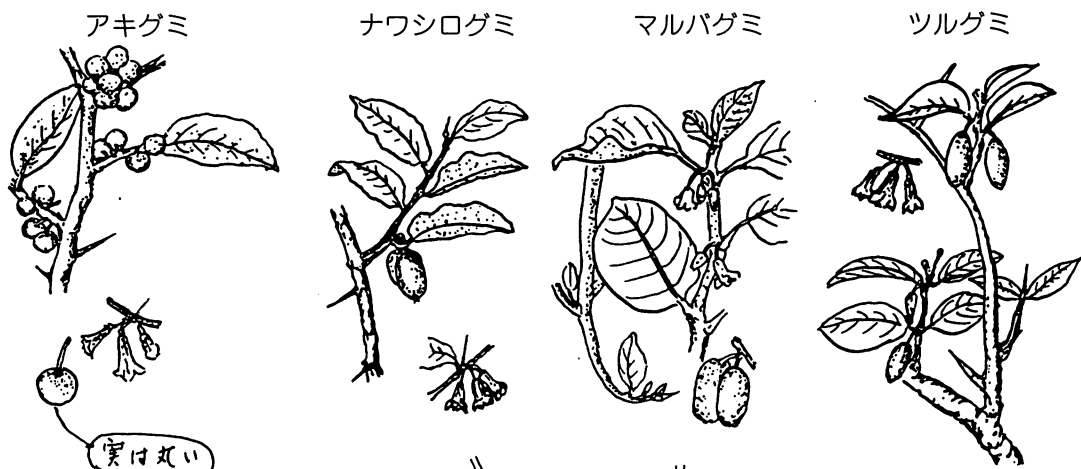
かぶれる木

- ・ハゼノキ 各地
- ・ヤマハゼ 山地
- ・ヤマウルシ 霧島など



99 アキグミ (ぐみ科)  
111 ナワシログミ(ぐみ科)

解説 普通に見かけるグミは、アキグミとナワシログミである。また、海岸地方では次にあげたマルバグミやツルグミもよく見られる。



時期

①花 4～5月頃

②実 秋に赤く熟す

場所

海岸から山野まで最も多く見られる。

解説

- 秋に実が熟す→アキグミ
- 葉は白っぽい

海岸近くの山野に多く見られるが、山地にも多い。

- 苗代の時期に実が熟す→ナワシログミ(3～4月頃)
- 葉はかたく光沢がある。表は緑、裏は褐色の点あり。

海岸林の植物。主として県本土南部。

- つる性の木
- 葉の表は弱い光沢があり裏は銀白色

海岸林や山中にある。

- つる性の木
- 葉の裏は赤褐色

秋遅くにかけて花をつけ、実は次の年の3～5月頃に赤く熟す。

104 アマクサギ(くまつぶら科)



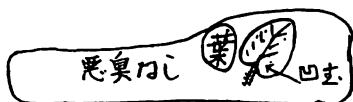
時期 夏に花。

場所 海岸近くに多い。

解説 名の示すとおり葉は“くさい”が、山菜としても親しまれている。方名でクサツナとかクサギナと呼ばれている。葉に光沢がある。

似た植物

- クサギ 人里周辺の山地に多い。アマクサギより強い臭気がある。
- ショウロクサギ 悪臭なし。



ショウロクサギ  
(くまつぶら科)

## 102 オオムラサキシキブ(くまつぶら科)

**時期** 花は夏、実は秋に熟して紫色になる。花も紫色。

**解説** 秋の山野で、紫色の小さな実をいっぱいつけた木を見かける。そのうち、よく見かけるのが下の4種である。いずれもくまつぶら科。秋にこれらの木を見つけたら特徴を見比べながら、自分の力で名前を調べてみよう。高さはいずれも1~2mぐらいが普通。

オオムラサキシキブ



コムラサキ



ムラサキシキブ



ヤブムラサキ



**場所**

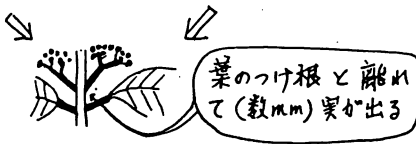
主として県中部以南の  
海岸近くの山や道ばた。

主として県北部の湿地。  
(イムタ池や吉松など)

各地の林内

各地の林内

**特徴**



葉は大きく  
10~15cm位  
葉に毛はなし

葉は小さく  
3~5cm位  
葉に毛はなし

葉は中位  
5~10cm程  
葉に毛はなし

葉は中位  
5~10cm程  
両面とも柔い毛に  
おおわれている。

## 120 マルバハギ(まめ科)



**時期** 秋に花。

**場所** 山野の路傍、林のへり、日当たりのよい崖などに多い。

**解説**

普通に見かけるのはこの2種

秋の山野を彩る代表的な植物。野菜や果物に季節感がなくなったといわれて久しいが、野の草花はまちがうことなく我々に四季を教えてくれる。ジュウゴヤバナの方名が示すとおり、名月にダンゴと供える頃から秋は深まっていく。

花は葉にかくれる  
ぐらいの長さ、短い  
高さ1m位で枝を多く出す

葉も大きい  
花の枝は  
葉よりずっと長い

**似た植物**

オオマルバハギ  
(まめ科)



### 103 キブシ (きぶし科)

**時期** 3～4月、葉に先立って黄色の花をつける。果実は熟すと黄色くなる。

**場所** 山地に広く自生する。林縁に多い。

**解説** 春休みのころ、山道を歩くとよく見られる。落葉低木で雌雄異株。黄色い房状の美しい花（葉はついていない）が特徴。



**似た植物** ナンバンキブシ (きぶし科)

3～4月淡黄色の花

をつけ、6～7月だ円形の実がなる。

海岸近くに生える。

枝が太く、葉は厚く大きい。葉の裏面は少し白っぽい。



### 106 クスノキ (くすのき科)

**時期** 5～6月、白黄色の花が咲き、11月頃黒色の実がなる。

**場所** 県本土の照葉樹林では、シイ、カシ類とともに、最も多いもののひとつ。



**似た植物** ヤブニッケイ (くすのき科)

壁虱の幼虫がいて葉と共生している。  
脈線には虫がのふくらみがある

### 105 クサイチゴ (ばら科)

**時期** 4～5月に花。落葉小低木。果実は赤色に熟す。

**場所** 山地に普通に見られる。

**解説** 茎にはとげがまばらにつき、葉のふちには鋸歯がある。葉の両面に毛が密生している。草いちごの意味。食べられる。



### 133 ナワシロイチゴ (ばら科)

**時期** 初夏に花が咲き、果実は6～7月赤く熟す。

**場所** 山野の日当たりの良いところに生える。

**解説** 苗代づくりをすることで実が熟すので、この名がついた。

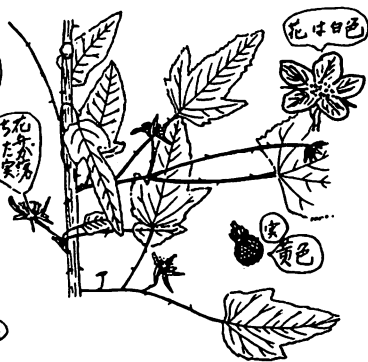


### 110 ナガバノモミジイチゴ (ばら科)

**時期** 4月白色の花をつけ、実は6月黄色く熟す。

**場所** 山地に普通に見られる。落葉小低木。

**解説** 葉の形がカエデ (モミジ) の葉に似ている。キイチゴともいう。これは木イチゴ、あるいは黄イチゴに由来する。



## 108 シャリンバイ (ばら科)

**時期** 初夏に花，夏～秋に実が熟す。

**場所** 海岸付近の岩場に多い。

**解説** 葉に光沢があり，裏面は白っぽく葉脈がはっきり見える。葉のへりはやや裏側へ巻くようにして曲がる。花が梅に似ており，直線的に出る枝が輪生するため車輪梅の名が付いた。黒く熟した実の皮は甘い。

シャリンバイは大島紬の泥染めの原料として有名である。この木（葉を除く）を細く切り，10時間以上煮てその液を泥と混ぜて使う。この木に含まれるタンニン酸が染色に一役かうわけである。



## 109 トベラ (とべら科)

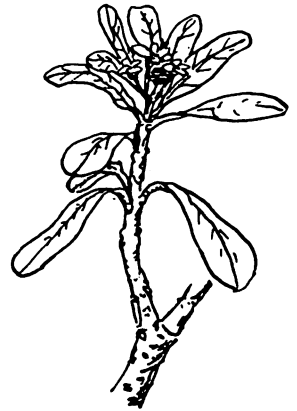
**時期** 5～6月に花。秋遅く，赤い実が裂けて出る。

**場所** 海岸近くの山に多い。人家周辺の山地，庭木としても植えられている。

**解説** 樹皮は黒っぽい。葉は光沢があり濃い緑色。葉のへりは裏側へ巻きこんだようになっている。木の枝や幹には特有のにおいがある。花は白から黄色に変わり芳香がある。

節分に，この木を扇にはさみ，鬼をおいはらうのに使ったからトビラの木→トベラになったとされるが，それほどにこの木の臭気は強い。

キレツトリモチは主としてこの木の根に寄生する。しかし，おもしろいことに(?)，このページにあげた3種，トベラ，シャリンバイ，ネズミモチのいずれにも寄生することが知られている。これ以外への寄生は知られていないようである。



## 112 ネズミモチ (もくせい科)

**時期** 5～6月頃に花，10月頃実が黒く熟す。

**場所** 山地や海岸近く，林のへり，川岸など，人家に生垣として植えてある。そのためか 人里にも多く見られる。

**解説** 本県では「イボタ」「イボタノキ」の方名でよく知られている。本当のイボタノキ（もくせい科）は別にある。樹皮は灰色でなめらか。葉は対生。分厚くにぶい光沢がある。実の形がネズミの糞に，葉がもちのき科に似ていることよりネズミモチの名がついた。



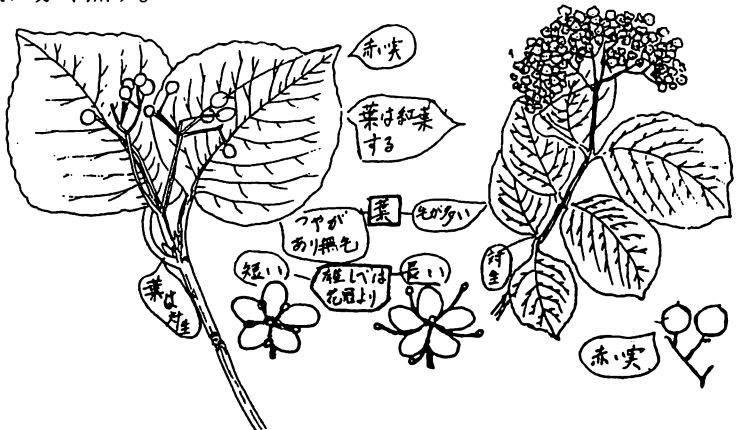
113 ハクサンボク (すいかずら科)

似た植物 ガマズミ (すいかずら科)

時期 春, 花をつけ, 実には秋に赤く熟す。

場所 照葉樹林の林間や林縁に多い。

解説 暖地に分布する常緑の低木。高さ5mほどにもなる。葉は対生で光沢があり, 秋美しく紅葉する。ハクサンボクの名は石川県白山に由来する。



118 マサキ (にしきぎ科)

似た植物 コクテンギ (にしきぎ科)

海岸近くに生える。

時期 6~7月に花。秋に赤色の実をつける。

場所 海岸に多い。庭木, 生垣などに用いられる。常緑低木。

解説 花卉は4枚, 小さな花をつけ, 果皮は黄赤色で球形。



119 マルバウツギ (ゆきのした科)

ウツギ (ゆきのした科) (ウノハナ)

5~6月白色の花が咲き, 花はやや下にたれる。

107 コガクウツギ (ゆきのした科) (コンテリギ)

白色の4弁花

時期 4~6月に花を多数つける。

場所 畑の土手や, 道ばたのがけに多い。落葉低木。

解説 葉は対生で, 両面共にざらつく。ウツギとは中空(うすき)の茎が中空であることによる。



県北部に多くみられる。

時期 5~7月に黄白色の花。

場所 山中の木陰, 道ばた。

解説 茎は紫褐色。花卉はとがる。

ゆきのした科の仲間には, コガクウツギのように花のつくりが退化し, がくが花弁状をしているかざり花(中性花)をもつものもある。ガクウツギ, アジサイなど, 確かめてみよう。

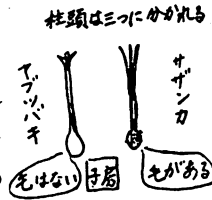
## 121 ヤブツバキ (つばき科)

**時期** 2～4月頃赤色の花。9～10月実が熟す。

**場所** 照葉樹林の林間に生える。海辺に近い山地に多い。



**解説** やぶに生えることから名づけられた。これからツバキの園芸品種多数がつけられた。



## 似た植物 サザンカ (つばき科)

秋から初冬に白色の花が咲き翌年9～10頃実が成熟する。

## 122 ヤマヤナギ (やなぎ科)

**時期** 春、葉と共に長さ3～5cmの花穂を出す。

**場所** 山地に生える。

**解説** 丘から山地にかけて、日当たりのよいところに普通に生える低木。葉は初め灰白色の毛が密にあるが、後無毛となる。葉の形は広だ円形。雌雄異株。



## 似た植物

ネコヤナギ (長楕円形、葉裏に絹状の毛) (やなぎ科)

イヌコリヤナギ (長楕円形鈍頭、葉柄ほとんどない) (やなぎ科)

コリヤナギ (線形・鋭頭、短い柄あり) (やなぎ科)

## 100 イヌザンショウ (みかん科)

**時期** 夏、淡緑色の小さな花を多数つける。

**場所** 林縁、伐採地などやや日なたを好む。

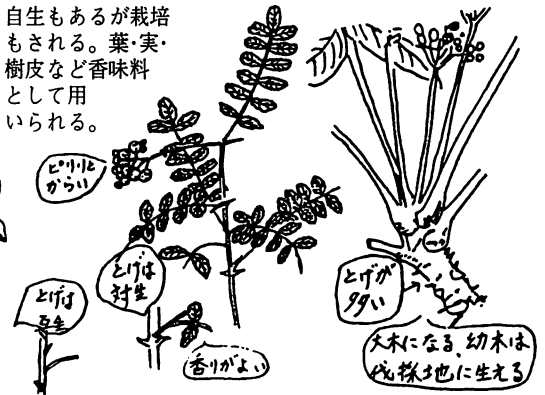
**解説** サンショウによく似ているが、葉に良い香りがなく、茎にはとげがまばらにつく。雌雄異株。



## 似た植物 サンショウ (みかん科)

## カラスザンショウ (みかん科)

自生もあるが栽培もされる。葉・実・樹皮など香味料として用いられる。



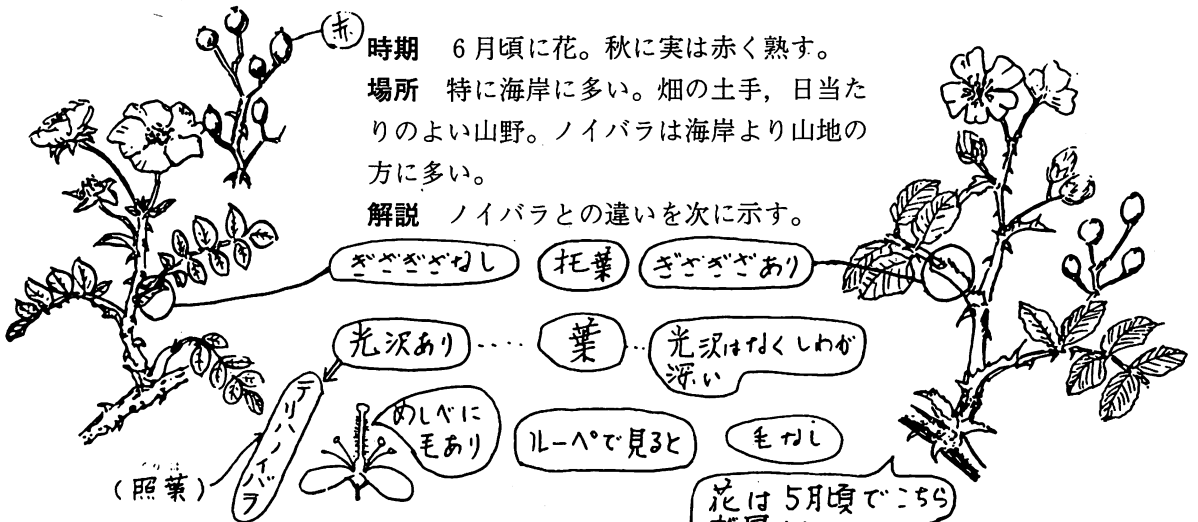
雌雄異株の植物(雄木と雌木の区別のある植物)…イヌザンショウ、アオキ、モチノキ、ヤマノイモ、イチヨウ、カナムグラなど。



132 テリハノイバラ (ばら科)

似た植物 ノイバラ (ばら科)

時期 6月頃に花。秋に実は赤く熟す。  
 場所 特に海岸に多い。畑の土手、日当たりのよい山野。ノイバラは海岸より山地の方に多い。  
 解説 ノイバラとの違いを次に示す。



似た植物 ヤブイバラ (ばら科) 山地に多い。

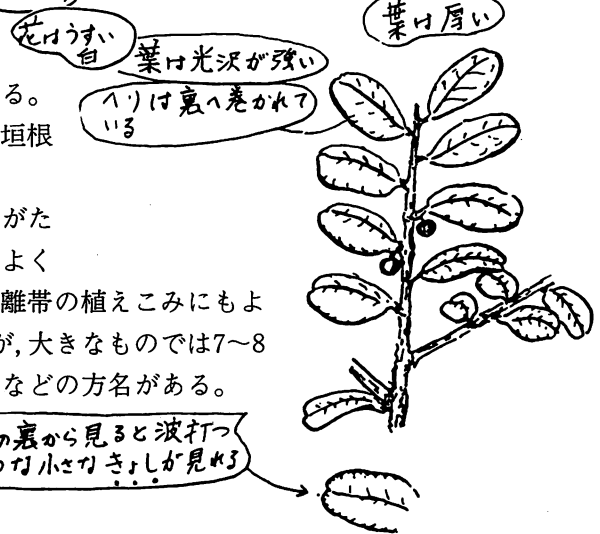


頂小葉が他より長いのが特徴  
 光沢あり

115 ハマヒサカキ (つばき科)

時期 花は春。常緑、実は熟すと黒くなる。  
 場所 おもに海岸地。畑の土手や人家の垣根など。

解説 花の時期には、特有の臭気(腐臭)がただよう。海岸近くの畑や田んぼの土手にはよく見られる。また、最近では道路わきや中央分離帯の植えこみにもよく用いられている。低木のイメージが強いが、大きなものでは7~8mのものもある。オトコシバ、オトコサカキなどの方名がある。



116 ヒサカキ (つばき科)

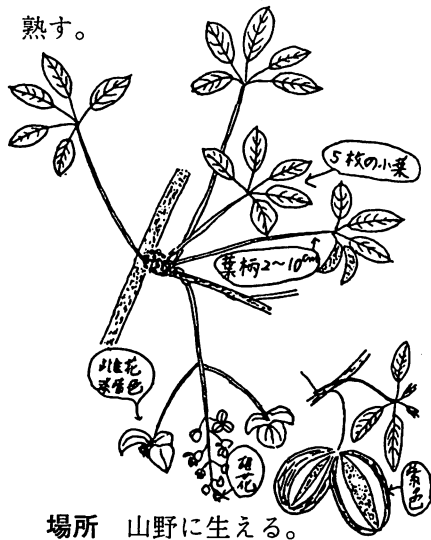
時期 3~4月白色の花。常緑の低木、実は秋遅く熟して黒くなる。(やや紫色をおびる)  
 場所 林内や畑の土手、人里周辺など。庭に植えたりする。  
 解説 この花も前種と似た特有の臭気がある。本県ではサカシバ、ハナシバ、アクシバ等の方名で呼ばれ、よく仏事、神事に用いられる。墓参に行くときよくお目にかかる植物である。名の由来は姫サカキ(サカキより小型の意味)で陽サカキや非サカキではない。



**葉のつき方の特徴**  
 ハマヒサカキやヒサカキの葉は左右交互に、しかも正面に2列に並べ。このようなつき方を2列互生という

## 123 アケビ (あけび科)

場所 花は5月頃、実は秋に熟す。



場所 山野に生える。

解説 つる性の木本植物。

落葉性で小葉は普通5枚、雌雄同様で雄花、雌花の別がある。花は淡紫色。

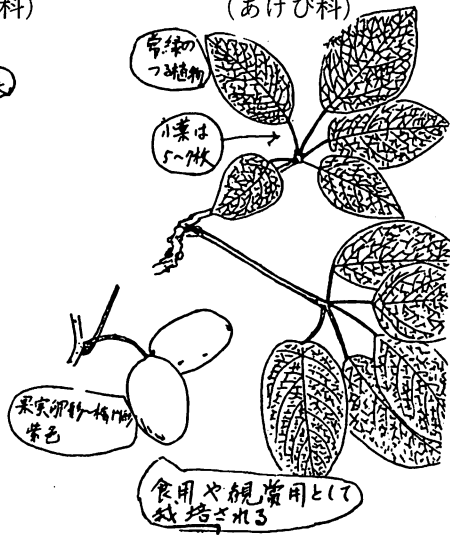
似た植物 ミツバアケビ (あけび科)



アケビ

ミツバアケビ

ムベ (あけび科)



ムベ

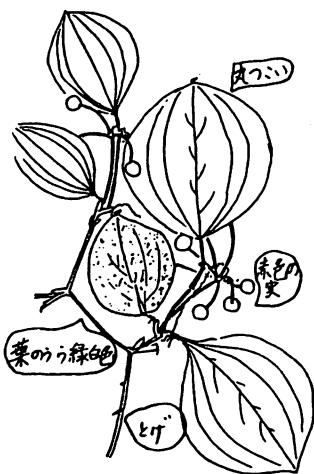
	アケビ	ミツバアケビ	ムベ
葉(複葉)	5枚	3枚	5~7枚
果実	たてにさける	たてにさける	さけない
がく片	3個	3個	6個

## 129 サルトリイバラ (ゆり科)

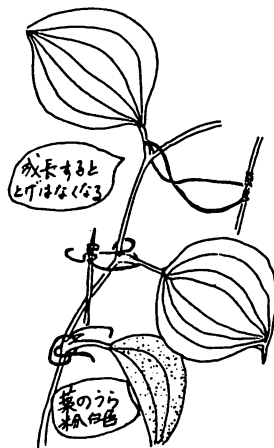
時期 初夏に花が咲く。

場所 山野に生える。

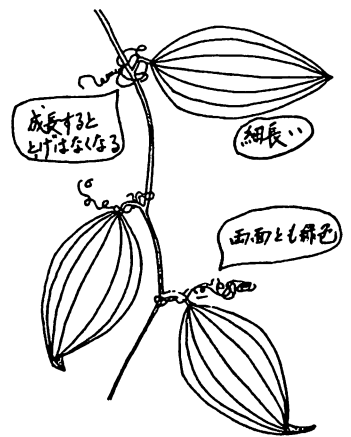
つる性低木。



似た植物 ハマサルトリイバラ (ゆり科)



サツマサンキライ (ゆり科)



サルトリイバラに似るが、とげがなく、果実は黒色。南部の海岸に多い。

県本土海岸近くの山地に見られ、幼木にはとげがあるが、成長すると、とげはなくなる。冬に開花。果実は黒色。

解説 猿とりイバラは、とげがあつて「サル」がひっかかるといふ意味。茎はつる状になつてまばらにとげがある。方名で、カカラ、カカランハといわれる。五月節句のダンゴを包むのにこの葉を用いる。秋に美しい赤色の実をつける。

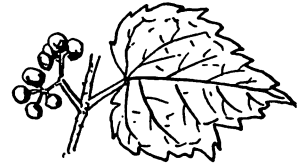
124 エビズル (ぶどう科)

134 ノブドウ (ぶどう科)

時期 両種とも秋に実をつける。

場所 山地や野原のやぶ、畑近くのやぶなど。

解説 エビズルをノブドウとまちがう人が多い。違いは次のようである。



食べられる  
黒紫色

実

食べられない  
白→紫→青と  
変化しきれいでいる

ほぼ一定

葉の形

同じものかと信じられ  
ないほどに変化  
が多い。きれいな大小

白い綿毛がびっしり。  
特に若葉は茶色の  
毛

葉のうら

緑白色で無毛

ガラメ  
ガネツ など

方言名

インガネツ など  
キッネンガラメ

← 食べられない ガラメの意味

調べてみよう 巻きひげのつき方を調べてみるとおもしろいことに気がきます。エビズルの巻きひげは、葉と対生して(向かい合っ)つきますが、そのつき方は左、右、無し。右左…と規則性があります。ノブドウは各節につきます。ブドウやヤブガラシなどについても調べてみましょう。

127 カラスウリ (うり科)

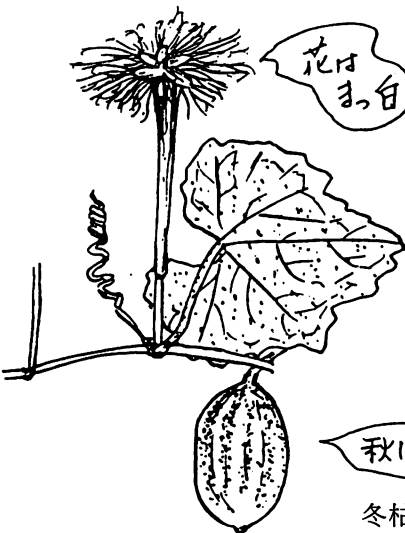
時期 いずれも夏に花、秋に実が熟す。

場所 山野、道路ばたのやぶなど。

似た植物 キカラスウリ (うり科)

どちらも根に多量のデンプンを含む。天瓜粉(てんかふん)はこれから作ったものである。

解説 花はいずれも夏の夕方咲き夜は満開。朝方しぼむ。ぜひ一度は夏の夜に観察したいもの。



花は  
まっ白

根は木杵にデンプン

葉は毛が多く  
ザラザラする

葉に毛は  
なくすべし

秋に実が赤く熟す

実は黄たいだい色に  
なる。

冬枯れの山野によく赤い実がたれさがっている。

125 オオイタビ (くわ科)

似た植物 ヒメイタビ (くわ科)



時期 夏～秋に「実」  
場所 人家の石垣や木にからみついでいる。

わりと山地の崖に多い

丸みをおびる  
洗はとがらない

先はとがる

光沢あり

葉

光沢なし

なめらか

しわが目立つ

4～5cm位

毛なし

裏の葉脈上に毛あり

2～4cm位

実の中は  
花の集まり

3～4cm

「実」

直径2cm位



いちじくの仲間であるがおいしくはない。

似た植物 イタビカズラ 山中に多い。葉が長い5～10cm位。(くわ科)

140 ヤマノイモ (やまのいも科)



時期 夏～秋に花。

場所 山林内、林のへりなど。

解説 根を食用にするので有名。むかごも食べられる。

調べてみよう 葉はふつう対生しているが、互生になっている部分もある。どこが互生でどこが対生か？

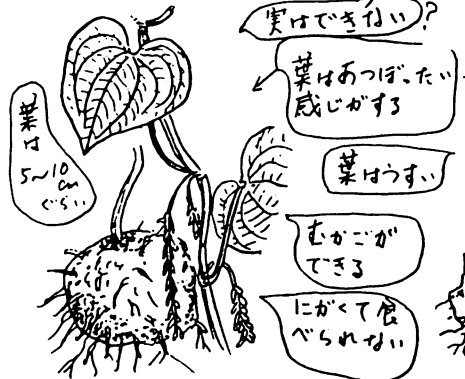
この仲間では、よく目にするのは下の3種である。いずれもつる植物で他の植物にからみついている。

むかご

マルバドコロ (ニガカシュウ)  
(やまのいも科)

オニドコロ  
(やまのいも科)

カエデドコロ  
(やまのいも科)



実はできぬい？

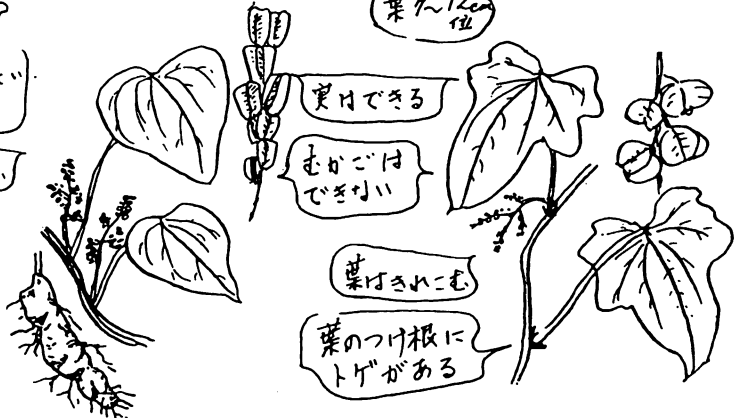
葉はあつぱたい感じがする

葉はうすい

むかごができる

にがくて食べられない

葉の長さ 5～10cm位



葉の長さ 7～12cm位

実はできる

むかごはできぬい

葉はささいこも

葉のつけ根にトゲがある

## 126 カナムグラ (くわ科)

**時期** 夏～秋に花をつける。

**場所** 道路ばたや荒地のやぶにおおいかぶさるようになって茂る。

**解説**

雄花のつく株 } 別々になっている⇒雌雄異株  
 め花のつく株 }

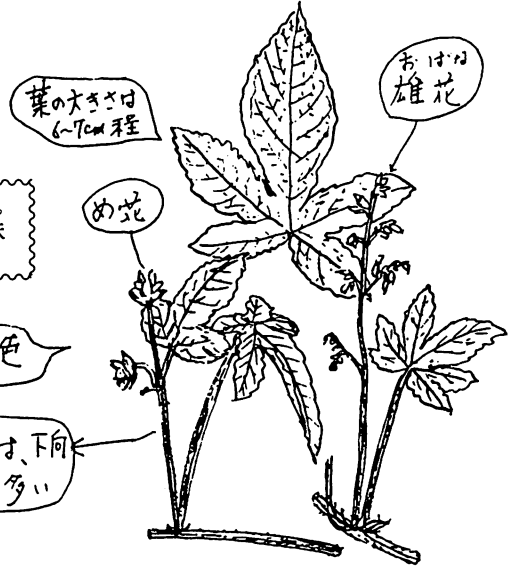
**トゲの役割**

他の植物などに自分の体をひっかけたり、からまったりするのにつごうがよい。

自分の体を支えきれないつる植物にはトゲや巻きひげを持つものが多い。

葉も茎も緑色

柄や茎には、下向きのトゲが多い



## 137 ヤエムグラ (あかね科)

**時期** 夏に花

**場所** 人家周辺の土手ややぶ、道路ばた、畑のまわりなど。

**解説** 葉がいく重にもかさなって茂っている様子からこの名で呼ばれた。全体にとげが多い。

このうち本当の葉は2枚!!  
 葉のつけ根から枝分かれしているものが本来の葉で他はたぐ葉という一種の付属体  
 が変化したものです。

あかね科の植物は全て葉が対生する。また全て托葉を持つが、それが葉のように変化したのがアカネやヤエムグラの仲間である。

**似た植物**

ホンバノヨツバムグラ (あかね科)

ヤマムグラ (あかね科)

## 136 ヘクソカズラ (あかね科)

**時期** 8～9月頃花、秋に実は黄色に熟す。

**場所** 人里付近の林のやぶや畑のそば、道路わきのやぶなど。

**解説** 葉をもんでにおいをかぐと臭い。これからヘクソカズラの名がついた。

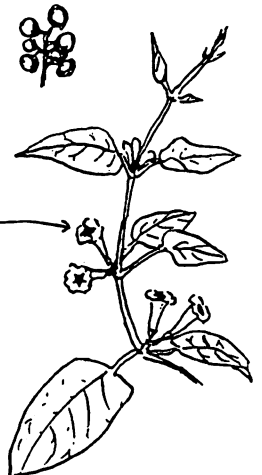
花は名に似合わずきれいで、幼い頃、この花を鼻の頭につけて遊んだ大人も多いと思う。地方によってはハナテングの方名で呼んでいる。別名 ヤイトバナ

海岸性で葉が分厚くにおいのしないのをハマサオトメカズラという。

実は黄色で冬も残る

外はピロピロ状の白中は紅葉色

葉は対生で大小の変化あり

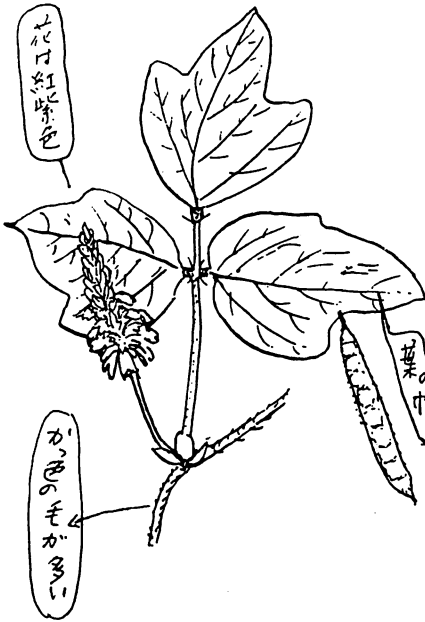


時期 秋に花。

場所 日当たりの良い土手や林のへりに多い。

解説 初夏から秋にかけて、林のふちの木々をおおいつくすようにして茂るつる植物。高さは10m以上になり他に見まぢがえるような植物はない。鹿児島市の城山登山道一帯もこの葉のつけ根はぷくっとふくらみ、クズにおおわれている。小さなコブのようになってい。根からは良質のデンプンこれはまめ科の特徴である。見分けるのに便利である。

がとれる。方名いろいろあるが、一般には“カンネンカズラ”の名で知られている。



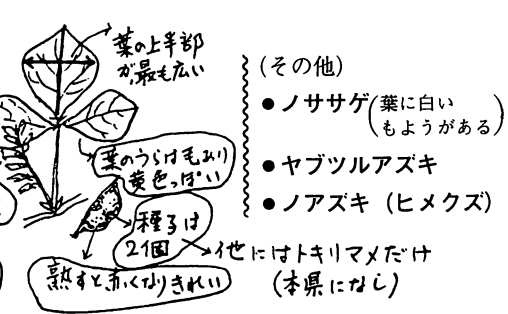
コブの横にはトゲ状の細い突起がある。注意して見てみよう。

調べてみよう クズは極めて大型のまめ科のつる植物であるが、路傍には、まめ科で小型のつる植物が多い。次にあげる植物も探してみよう。道ばたに多く見られる代表種です。

ヤブマメ (まめ科)

ツルマメ (まめ科)

タンキリマメ (まめ科)



- (その他)
- ノササゲ(葉に白い毛がある)
  - ヤブツルアズキ
  - ノアズキ(ヒメクス)
- イセにはトキリマメだけ(本県になし)

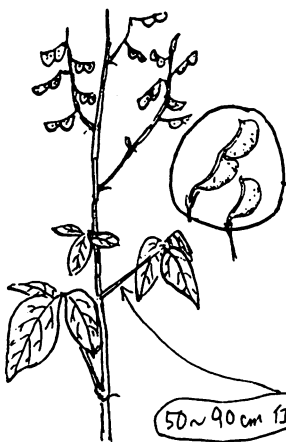
82 ヌスビトハギ (まめ科)

似た植物 ミンナオシ(まめ科)

時期 秋に花

場所 林道や道路ばたのやぶなど

解説 秋の山道を歩くと、必ずといってよい程実がズボンについてくる。名の由来は、この実の形が、ヌスビトが音を忍ばせて歩くときの足跡に似るからという説と、音もなく人にとりつくからという説の2つがある。



実の長い点で区別される

柄が幅広く平たい

50~90cm位

# 130 スイカズラ (すいかずら科)

**時期** 初夏に花をつける。

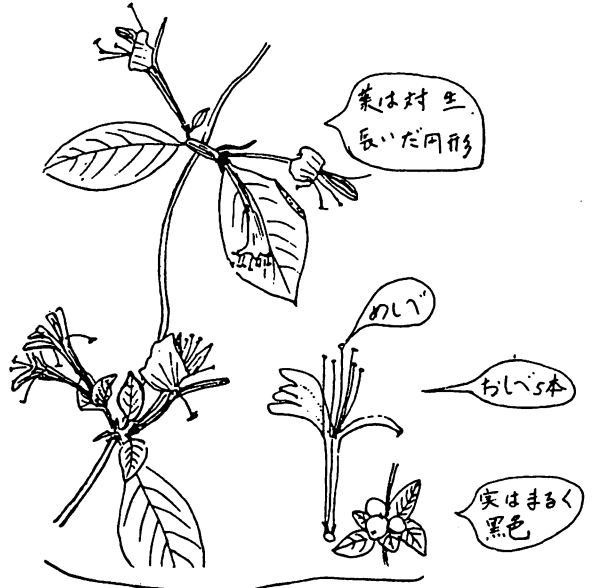
**場所** 各地の山野にみられる。常緑つる性植物。

**解説** 花の色は、はじめ白色、のち黄色に変わる。花はおしべ5本、めしべ1本で花中に蜜がある。蜜を吸うときの唇の形に花弁が似ているためこの名がついた。忍冬ともいう。

キダチニンドウ (すいかずら科)      ハマニンドウ (すいかずら科)



海岸に近い林中、葉の下面に腺点あり。      海岸に多い。ほとんども毛。腺点なし。



スイカズラ (葉裏に腺点なし)

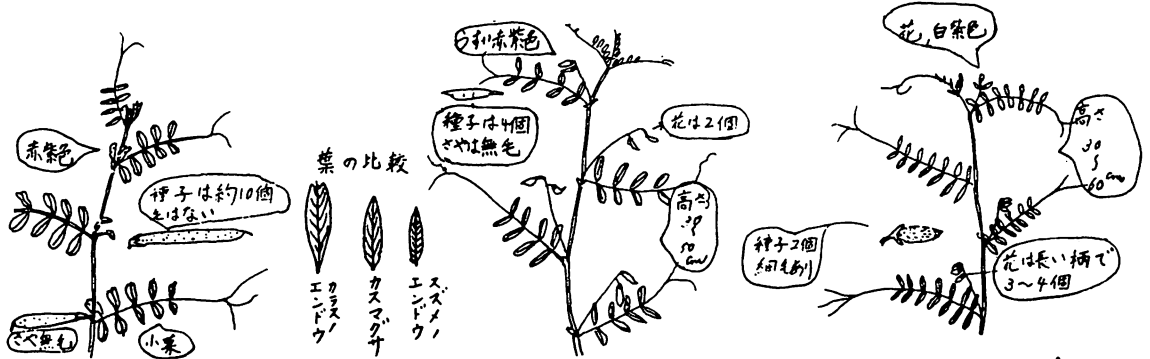
# 138 ヤハズエンドウ (まめ科)

(カラスノエンドウ)

似た植物      カスマグサ (まめ科)

スズメノエンドウ (まめ科)

**時期** 4～5月に花が咲く。



**解説** スズメノエンドウに比べて大形であるので「カラスノエンドウ」。また大きさが「カラスノエンドウ」と「スズメノエンドウ」の間であるので、「カスマグサ」と名づけられた。

果実のつき方を比べてみよう。

# 97☆アオモジ (くすのき科)

**時期** 2～3月、花と葉ほとんど同時に開く。

**場所** 林縁部、伐採地など日当たりのよい薩摩半島の西海岸の林に多く、不思議と大隅半島には無い。

**解説** 高さ5mにもなる落葉高木。樹皮は黒緑色。若枝は緑色。正月のころコメバナ、ミノハナといい、墓参用の花としてよく使われる。材は香りがよいのでつまようじを作り、また実は香料の原料となる。雌雄異株。



# 索 引

選ばれた植物140種以外に、この解説集で取りあげた植物174種

<b>ア</b>		<b>ク</b>		<b>ト</b>	
アカツメクサ	( 63)	ク サ ギ	(104)	トキワススキ	( 22)
アカミタンポポ	( 68)	ク マ ノ ギ ク	( 83)	ト ク サ	( 6)
アキノエノコログサ	( 16)	ク ル マ バ ナ	( 78)	ト ゲ ソ バ	( 91)
アキメヒシバ	( 34)	ク ワ ク サ	( 45)	<b>ナ</b>	
ア ジ サ イ	(107)	グンバイヒルガオ	(135)	ナンバンキブシ	(103)
アツバスマレ	( 66)	<b>ケ</b>		<b>ニ</b>	
ク サ ギ	(104)	ケチドメグサ	( 74)	ニオウヤブマオ	( 51)
アフリカヒゲシバ	( 17)	<b>コ</b>		ニガガシユウ	
アマチャズル	( 11)	コウボウシバ	( 19)	ニ シ キ ソ ウ	( 60)
アメリカフウロ	( 58)	コオニタバコ	( 50)	ニ ワ ホ コ リ	( 23)
アレチノギク	( 46)	コ ク テ ン ギ	(118)	<b>ネ</b>	
<b>イ</b>		コツブキンエノコロ	( 16)	ネコヤナギ	(122)
イタバカズラ	(125)	コムラサキシキブ	(102)	<b>ノ</b>	
イヌコウジュ	( 36)	コメナモミ	( 49)	ノ ア ズ キ	(128)
イヌコリヤナギ	(122)	コメヒシバ	( 34)	ノ イ バ ラ	(132)
イヌトクサ	( 6)	コモチシダ	( 10)	イ ゲ シ	( 87)
イヌノフグリ	( 47)	コリヤナギ	(122)	ノ コ ン ギ ク	( 94)
イワガネ	( 59)	<b>サ</b>		ノ サ サ ゲ	(128)
<b>ウ</b>		サザンカ	(121)	ノ ジ ス ミ レ	( 66)
ウシハコベ	( 85)	サツマサンキライ	(129)	ノ チ ド メ	( 74)
ウ ツ ギ	(119)	サナエタデ	( 41)	ノ ア キ	( 90)
<b>オ</b>		サンショウ	(100)	ノ マ ア ザ ミ	( 84)
オイランアザミ	( 84)	<b>シ</b>		<b>ハ</b>	
オオアワダチソウ	( 67)	シ シ ガ シ ラ	( 7)	ハイコモチシダ	( 10)
オオイスタデ	( 41)	シツバタツナミ	( 62)	ハ ゼ ノ キ	(117)
オオオナモミ	( 49)	シマニシキソウ	( 60)	ハチジョウススキ	( 22)
オオツメクサ	( 75)	ショウロウクサギ	(104)	ハ ド ノ キ	( 59)
オオニシキソウ	( 60)	シラヤマギク	( 94)	ハ ナ イ バ ナ	( 55)
オオバイノモトソウ	( 1)	シロバナサクラタデ	( 41)	ハマエノコロ	( 16)
オオバチドメ	( 74)	シロバナタンポポ	( 68)	ハマサオトメカズラ	(136)
オオマトヨイグサ	( 38)	<b>ス</b>		ハマサルトリイバラ	(129)
オオマルバハギ	(120)	スズメノエンドウ	(138)	ハマツメクサ	( 75)
オオムラサキシキブ	(102)	<b>セ</b>		ハマニンドウ	(130)
オニドコロ	(140)	セイヨウタマシダ	( 8)	ハマホラシノブ	( 21)
オニノゲシ	( 87)	セ ト ガ ヤ	( 24)	ハ リ ビ ユ	( 42)
オニユリ	( 20)	<b>タ</b>		ハルジョオン	( 88)
<b>カ</b>		タチイヌノフグリ	( 47)	ハ ル タ デ	( 41)
カエデドコロ	(140)	タチシノブ	( 12)	ハルノノゲシ	( 35)
カキドオシ	( 77)	タツナミソウ	( 62)	ハンゲショウ	( 79)
カスマグサ	(138)	タンキリマメ	(128)	<b>ヒ</b>	
カネコシダ	( 2)	<b>ツ</b>		ヒキオコシ	( 36)
カモノハシ	( 18)	ツクシメナモミ	( 49)	ヒナタイノコズチ	( 43)
カラスザンショウ	(100)	ツボスマレ	( 70)	ヒメイタビ	(125)
ガクウツギ	(107)	ツルグミ	(111)	ヒメクズ	(128)
ガマズミ	(113)	ツルノゲイトウ	( 69)	ヒメジソ	( 36)
<b>キ</b>		ツルマメ	(128)	ヒメスイバ	( 64)
キイレットトリモチ	(109)	ツワブキ	( 90)	ヒメチドメ	( 74)
キカラスウリ	(127)	<b>ト</b>		ヒメミカンソウ	( 61)
キダチニンドウ	(130)	トキリマメ	(128)	ヒメヤマアザミ	( 84)
ギシギシ	( 64)	<b>ニ</b>		ヒメワラビ	( 14)
ギンリョウソウ	( 81)	<b>ハ</b>			
キンエノコロ	( 16)	<b>ク</b>			



へ	No.	マルバヤハズソウ	( 93)	ヤブツルアズキ	(128)
ヘンリーメヒシバ	( 34)	ミ		ヤブニッケイ	(106)
ホ		ミソナオシ	( 82)	ヤブマメ	(128)
ホウキギク	( 46)	ミチバタガラシ	( 40)	ヤブムラサキ	(102)
ホソアオゲイトウ	(42 )	ミツバアケビ	(123)	ヤマウルシ	(117)
ホソバイヌビワ	(101)	ミミナグサ	( 52)	ヤマスズメノヒエ	( 25)
ホソバノヨツバムグラ	(137)	ム		ヤマチドメグサ	( 74)
ホトケノザ	( 50)	ムベ	(123)	ヤマトウバナ	( 78)
ホナガイヌビユ	( 42)	ムラサキカタバミ	( 54)	ヤマハゼ	(117)
ボタンズル	(131)	ムラサキシキブ	(102)	ヤマハッカ	( 36)
ボントクタデ	( 41)	ムラサキツメクサ	( 63)	ヤマムグラ	(137)
マ		メ		リ	
マツヨイグサ	( 38)	メナモミ	( 49)	リュウキュウイノモトソウ	( 1)
ママコノシリヌグイ	( 91)	ヤ		レ	
マルバグミ	(111)	ヤナギイノコズチ	( 43)	レモンエゴマ	( 36)
マルバツユクサ	( 28)	ヤナギタデ	( 41)		
マルバドコロ	(140)	ヤブイバラ	(132)		

### 参 考 文 献

原色日本帰化植物図鑑	1977	長 田 武 正	保 育 社
原色野草観察検索図鑑	1981	〃	〃
新牧野日本植物図鑑	1961	牧 野 富 太 郎	北 隆 館
寺崎日本植物図鑑	1979	寺 崎 留 吉	平 凡 社

